

参 考 资 料

参考（1）

高知県社会貢献活動推進支援条例

目 次

- 第1章 総則（第1条—第8条）
- 第2章 社会貢献活動に対する支援策の基本的事項等（第9条—第16条）
- 第3章 国及び他の地方公共団体との協力等（第17条・第18条）
- 附 則

第1章 総則

（目的）

第1条 この条例は、現在及び将来の地域社会において重要な役割を担う社会貢献活動に対する支援について、基本理念を定め、並びに県、市町村、事業者、県民及び社会貢献活動団体の責務を明らかにするとともに、社会貢献活動に対する支援策の基本となる事項を定めることにより、その支援策を総合的かつ計画的に推進し、もって県民の社会生活の質の向上を図り、豊かで安心して暮らすことができる元気な地域社会づくりに寄与することを目的とする。

（定義）

第2条 この条例において「社会貢献活動」とは、営利を目的とせず、自主的に行う公益的な活動であって、その活動が次のいずれにも該当しないものをいう。

- (1) 宗教の教義を広め、儀式行事を行い、及び信者を教化育成することを主たる目的とする活動
- (2) 政治上の主義を推進し、支持し、又はこれに反対することを主たる目的とする活動
- (3) 特定の公職（公職選挙法（昭和25年法律第100号）第3条に規定する公職をいう。）の候補者（当該候補者になろうとする者を含む。）若しくは公職にある者又は政党を推薦し、支持し、又はこれらに反対することを目的とする活動
- (4) 公共の利益を害する行為をするおそれのあるものの活動

2 この条例において「社会貢献活動団体」とは、社会貢献活動を継続的に行う法人その他の団体をいう。

（基本理念）

第3条 社会貢献活動に対する支援は、次に掲げる基本的な方向により、県、市町村、事業者及び県民が、それぞれの能力に応じた役割分担のもとに、自主的かつ積極的に推進することにより行われなければならない。

- (1) 社会貢献活動団体の自主的な社会貢献活動を尊重し、促進する支援であること。
- (2) 社会貢献活動団体が自立し、地域社会の主体となるような支援であること。
- (3) 県、市町村、事業者、県民及び社会貢献活動団体のパートナーシップの醸成につながる支援であること。

（県の責務）

第4条 県は、前条に定める社会貢献活動に対する支援についての基本理念（以下「基本理

念」という。)に基づいて、総合的な支援策を策定し、及び実施するものとする。

(市町村の責務)

第5条 市町村は、基本理念に基づいて、当該市町村の区域の実情に応じた社会貢献活動に対する支援策を実施するよう努めなければならない。

(事業者の責務)

第6条 事業者は、基本理念に基づいて、地域社会の構成員として、社会貢献活動が円滑に推進されるよう努めるとともに、県又は市町村が実施する社会貢献活動に対する支援策に協力するよう努めなければならない。

(県民の責務)

第7条 県民は、基本理念に基づいて、社会貢献活動に自ら努めるとともに、県又は市町村が実施する社会貢献活動に対する支援策に協力するよう努めなければならない。

(社会貢献活動団体の責務)

第8条 県、市町村、事業者又は県民から支援を受けた社会貢献活動団体は、当該支援を最大限に生かし、誠実かつ着実に社会貢献活動を推進するものとする。

第2章 社会貢献活動に対する支援策の基本的事項等

(社会貢献活動支援推進計画)

第9条 知事は、第4条の規定により、社会貢献活動に対する支援策を総合的かつ計画的に推進するため、その基本となる計画(次項において「社会貢献活動支援推進計画」という。)を定めるものとする。

2 社会貢献活動支援推進計画は、次に掲げる事項について定めるものとする。

(1) 計画の構想

(2) 計画の目標

(3) 社会貢献活動団体の概況及び課題

(4) 社会貢献活動に対する支援策

(5) 前各号に掲げるもののほか、社会貢献活動に対する支援策を総合的かつ計画的に推進するために必要な事項

(活動基盤の整備)

第10条 県は、社会貢献活動が継続的かつ円滑に推進されるように、社会貢献活動を支援する拠点の整備、情報の提供等社会貢献活動の基盤の強化を図るために必要な方策を講ずるものとする。

(財政基盤の整備)

第11条 県は、社会貢献活動団体が継続的かつ円滑に社会貢献活動を推進することができるように、社会貢献活動団体の財政基盤の強化を図るために必要な方策を講ずるものとする。

(人づくりの推進)

第12条 県は、社会貢献活動に関する専門的知識を有する人材、社会貢献活動団体を支える人材等の育成を図るために必要な方策を講ずるものとする。

(広報、学習機会の提供等)

第13条 県は、事業者及び県民が社会貢献活動に対する理解を深め、並びに社会貢献活動へ

の自主的な参加が促進されるように、広報、学習機会の提供等の必要な方策を講ずるものとする。

(交流及び連携の推進)

第 14 条 県は、社会貢献活動団体相互の交流及び連携が図られるように、情報の交換等の必要な方策を講ずるものとする。

(財政上の措置等)

第 15 条 県は、社会貢献活動に対する支援策を実施するために必要な財政上の措置等を講ずるものとする。

(県民等の参加及び協働による支援の推進等)

第 16 条 県は、社会貢献活動に対する支援に関して事業者、県民及び社会貢献活動団体（以下この項において「県民等」という。）から広く意見を聴き、並びに県民等と協議を行うことにより、県民等の参加及び協働による社会貢献活動に対する支援を推進するものとする。

2 県は、社会貢献活動に対する支援について必要な調査及び研究を行い、その成果の普及を図るものとする。

第 3 章 国及び他の地方公共団体との協力等

(国及び他の地方公共団体との協力等)

第 17 条 県は、国及び他の地方公共団体と協力して、社会貢献活動が推進されるように努めるものとする。

(市町村への支援)

第 18 条 県は、市町村が実施する社会貢献活動に対する支援策を支援するように努めるものとする。

附 則

この条例は、平成 11 年 4 月 1 日から施行する。

参考（2）

高知県社会貢献活動支援推進会議委員

(令和5年6月16日現在 敬称略)

区分	団体名等	氏名	任期
行政関係	高知市市民協働部 地域コミュニティ推進課長	寺尾 優彦	R5.4.1～ R7.3.31
	土佐町企画推進課 課長補佐	川田 奈美	R5.4.1～ R7.3.31
企業	株式会社四国銀行地域振興部	山本 紫乃	R5.4.1～ R7.3.31
	高知県商工会議所女性会連合会 会長	北村 和代	R5.6.16～ R7.6.15
県民	公募委員	木下 くみ子	R5.4.1～ R7.3.31
	公募委員	田副 大輔	R5.4.1～ R7.3.31
NPO	特定非営利活動法人 暮らすさき 事務局長	大崎 緑	R5.4.1～ R7.3.31
	特定非営利活動法人 いなかみ 事務局長	近藤 純次	R5.4.1～ R7.3.31
学識経験者	高知県立大学文化学部 准教授	梶原 太一	R5.4.1～ R7.3.31
	高知大学 次世代地域創造センター 総合科学系地域協働教育学部門 地域協働学部 地域コーディネーター(UBC) 講師	梶 英樹	R5.4.1～ R7.3.31
中間支援組織	特定非営利活動法人 NPO高知市民会議 チーフ	矢田 正江	R5.4.1～ R7.3.31
	特定非営利活動法人 高知県西部NPO支援ネットワーク 理事長	八木 雅昭	R5.4.1～ R7.3.31
	社会福祉法人高知県社会福祉協議会 地域支援グループ長（兼）高知県ボランティア・ NPOセンター所長	間 章	R5.4.1～ R7.3.31

参考（3）

特定非営利活動促進法のこれまでの経緯

平成 7 年 1 月	阪神・淡路大震災発生
平成 8 年 12 月	「市民活動促進法案」第 139 回国会提出（議員立法）以後、継続審議
平成 10 年 3 月	衆議院にて「特定非営利活動促進法（NPO 法）」が可決成立（同年 12 月施行）
平成 13 年 10 月	認定特定非営利活動法人制度（認定 NPO 法人制度）の創設（平成 13 年度税制改正）
平成 14 年 12 月	改正 NPO 法の成立（翌年 5 月施行） ※特定非営利活動の種類の追加、暴力団を排除するための措置の強化等
平成 15 年 4 月	認定 NPO 法人制度の大幅拡充（平成 15 年度税制改正）
平成 16 年 12 月	「今後の行政改革の方針」（新行革大綱）を閣議決定 ※公益法人制度改革における基本的枠組みを具体化
平成 17 年 4 月	認定 NPO 法人制度の認定要件の緩和（平成 17 年度税制改正）
平成 18 年 4 月	認定 NPO 法人制度の認定要件の大幅緩和（平成 18 年度税制改正）
平成 18 年 5 月	公益法人制度改革関連 3 法案成立
平成 20 年 4 月	認定 NPO 法人の認定要件の大幅緩和（平成 20 年度税制改正）
平成 23 年 6 月	改正 NPO 法の成立（翌年 4 月施行） ※NPO 法人に関する事務を地方自治法で一元的に実施、制度の使いやすさと信頼性の向上のための見直し、認定制度の見直し（仮認定制度の導入等）等
平成 23 年 6 月	認定 NPO 法人の認定要件の大幅緩和（平成 23 年度税制改正）
平成 28 年 6 月	改正 NPO 法の成立（施行は、公布の日（平成 28 年 6 月）、公布の日から 1 年以内の政令で定める日（平成 29 年 4 月）、公布の日から 2 年 6 月以内の政令で定める日（平成 30 年 10 月）） ※認証申請書類の縦覧期間の短縮等、貸借対照表の公告規定を新設（登記事項から「資産の総額」を削除）、事業報告書等の備置期間の延長、海外送金に関する書類の事前提出制度の見直し、「仮認定特定非営利活動法人」の名称を「特例認定特定非営利活動法人」へ変更等
令和 2 年 12 月	改正 NPO 法の成立（令和 3 年 6 月施行） ※認証申請書類の縦覧期間の短縮、住所等の公表等の対象からの除外、認定 NPO 法人等の提出書類の削減等

参考（4）

社会貢献活動に関する県民意識調査

1 実施目的

第5次高知県社会貢献活動支援推進計画の策定に当たり、高知県民の実情を把握し、施策に反映させるため。

2 実施期間

令和5年8月1日（火）～令和5年8月31日（木）

3 実施方法

郵送回答、インターネット回答の併用

4 実施対象

県内全域から18歳以上の県民3,000人を抽出（各市町村の「選挙人名簿」より）

5 回答者数

有効回答者数：1,512名（回収率50.4パーセント）

（内インターネット回答者数：199名）

6 実査及び集計

株式会社サーベイリサーチセンター四国事務所

<※問1から問5までは、「食品ロス削減」についての調査結果のため省略しています。>

3. 社会貢献活動について

問6 ボランティア活動の関心度

あなたは、ボランティア活動に関心がありますか。(当てはまるもの1つに○印)

全体では、「関心がある」(50.7%)、「関心がない」(46.6%)となっている。

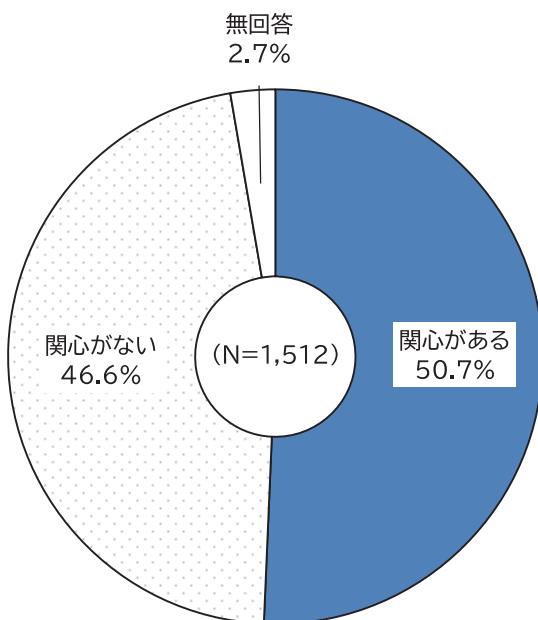
性別にみると、男性、その他は「関心がない」、女性は「関心がある」(52.3%)がそれぞれ最も多くなっている。

年代別にみると、10歳代、20歳代、50歳代以上は「関心がある」、30~40歳代は「関心がない」がそれぞれ最も多くなっている。

婚姻状況別にみると、未婚は「関心がない」(54.5%)、既婚、その他は「関心がある」がそれぞれ最も多くなっている。

居住地別にみると、高知市、南国・香美広域圏、仁淀川広域圏、幡多広域圏は「関心がある」、安芸広域圏、嶺北広域圏、高吾北広域圏、高幡広域圏は「関心がない」がそれぞれ最も多くなっている。

図表 ボランティア活動の関心度



	(1) 調査数 (人)	(2) 関心がある	関心がない	無回答
【表の見方】				
比率(%)				
網掛け =				
	1位			
	2位			
全体	1,512	50.7	46.6	2.7
性別				
男性	626	48.4	50.3	1.3
女性	877	52.3	44.0	3.6
その他	5	40.0	60.0	-
年代				
10歳代	22	68.2	27.3	4.5
20歳代	84	60.7	39.3	-
30歳代	138	48.6	50.0	1.4
40歳代	212	42.5	57.5	-
50歳代	265	50.2	47.9	1.9
60歳代	358	50.8	46.9	2.2
70歳以上	431	52.9	41.5	5.6
婚姻状況				
未婚	343	44.3	54.5	1.2
既婚	949	51.9	45.3	2.7
その他	210	56.2	40.5	3.3
お住まいの場所				
高知市	715	52.3	45.7	2.0
安芸広域圏	83	41.0	54.2	4.8
南国・香美広域圏	245	51.8	44.5	3.7
嶺北広域圏	25	36.0	64.0	-
仁淀川広域圏	118	54.2	44.9	0.8
高吾北広域圏	38	44.7	50.0	5.3
高幡広域圏	106	44.3	50.0	5.7
幡多広域圏	178	52.2	45.5	2.2

問7 NPO法人や市民活動団体、ボランティア団体などへの加入の有無

あなたは、NPO法人や市民活動団体、ボランティア団体などに「会員」(又は「役員」)として加入していますか。(当てはまるもの1つに○印)

全体では、「これまで加入したことはない」(89.5%)が最も多く、次いで「現在、加入している」(5.6%)、「過去に加入していた」(3.9%)となっている。

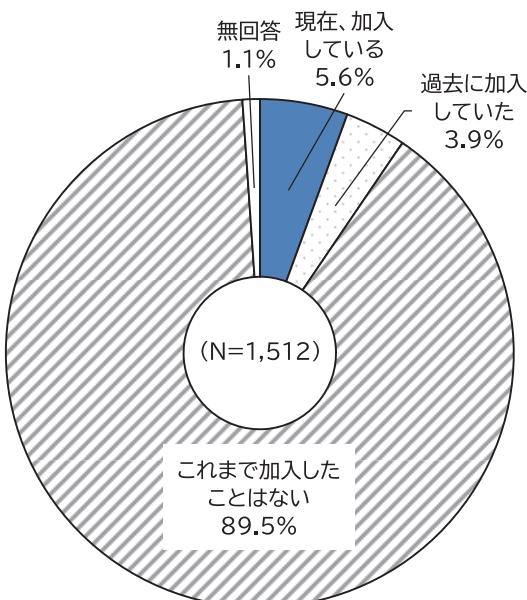
性別にみるとすべての性別で「これまで加入したことはない」が最も多く、「現在、加入している」は女性(4.8%)より男性(6.7%)の方が多くなっている。

年代別にみると、すべての年代で「これまで加入したことはない」が最も多く、「現在、加入している」は60歳代(7.3%)が最も多くなっている。

婚姻状況別にみると、すべての婚姻状況で「これまで加入したことがない」が最も多く、「現在、加入している」は既婚(6.8%)が最も多くなっている。

居住地別にみると、すべての居住地域で「これまで加入したことはない」が最も多く、「現在、加入している」は嶺北広域圏(12.0%)が最も多くなっている。

図表 NPO法人や市民活動団体、ボランティア団体などへの加入の有無

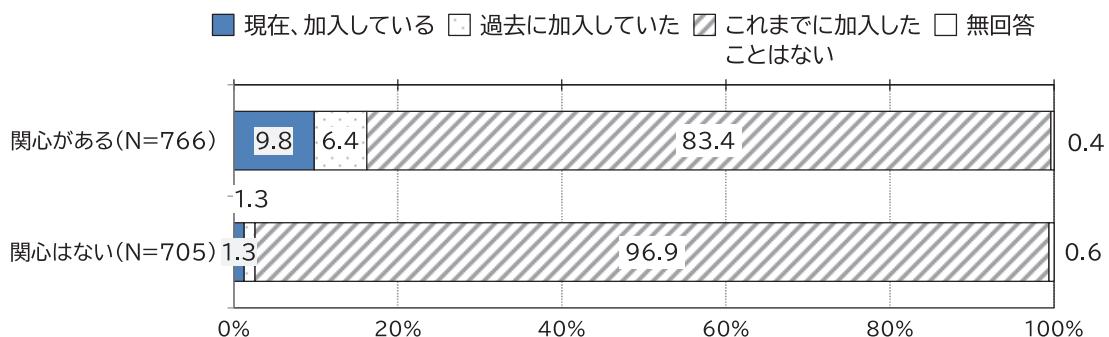


	(1) 調査数 (人)	(2) 現在、加入して いる	(3) 過去に加入して いた	な い れ ま で 加 入 し た こ と は	無 回 答
【表の見方】					
比率(%)					
網掛け =					
1位					
2位					
全體	1,512	5.6	3.9	89.5	1.1
性別					
男性	626	6.7	3.8	88.8	0.6
女性	877	4.8	4.0	90.0	1.3
その他	5	-	-	100.0	-
年齢					
10歳代	22	-	-	100.0	-
20歳代	84	3.6	4.8	91.7	-
30歳代	138	5.1	2.9	92.0	-
40歳代	212	3.3	2.8	93.4	0.5
50歳代	265	6.4	3.0	90.2	0.4
60歳代	358	7.3	3.9	88.0	0.8
70歳以上	431	5.6	5.3	86.8	2.3
婚姻状況					
未婚	343	2.0	2.3	95.0	0.6
既婚	949	6.8	4.2	87.9	1.1
その他	210	5.2	5.2	88.6	1.0
お住まいの場所					
高知市	715	4.9	3.4	90.9	0.8
安芸広域圏	83	8.4	8.4	81.9	1.2
南国・香美広域圏	245	5.3	2.0	92.2	0.4
嶺北広域圏	25	12.0	4.0	84.0	-
仁淀川広域圏	118	5.1	7.6	85.6	1.7
高岡北広域圏	38	10.5	2.6	86.8	-
高幡広域圏	106	7.5	5.7	84.9	1.9
幡多広域圏	178	4.5	3.4	90.4	1.7

(★問7×問6のクロス分析)

ボランティア活動の関心度との関係をみると、ボランティア活動に関心があると回答した方は「現在、加入している」が9.8%、「過去に加入していた」が6.4%となっており、一方で、ボランティア活動に関心がないと回答した方は「現在、加入している」が1.3%、「過去に加入していた」が1.3%となっており、ボランティア活動に関心がある人の方が加入率が高いことが伺える。

図 NPO法人や市民活動団体、ボランティア団体などへの加入の有無
－ボランティア活動の関心度との関係－



問8 ボランティア活動の参加の有無

あなたは、ボランティア活動に参加したことがありますか。(当てはまるもの1つに○印)

全体では、「参加したことがある」(35.7%)、「参加したことがない」(63.0%)となっている。

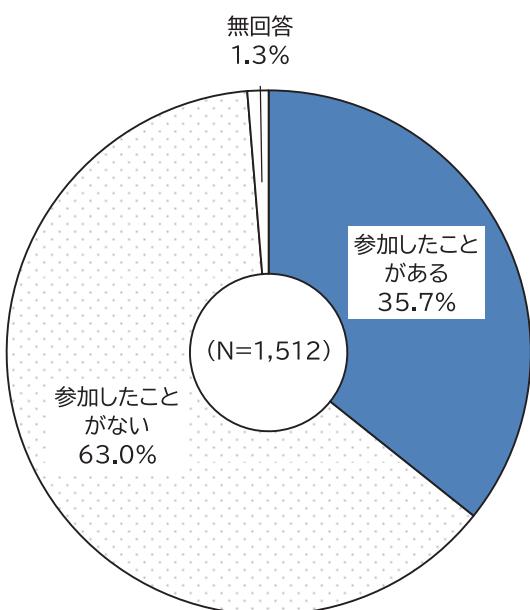
性別にみると、すべての性別で「参加したことがない」が最も多くなっている。

年代別にみると、10~30歳代は「参加したことがある」が最も多く、40歳代以上は「参加したことがない」がそれぞれ最も多くなっている。

婚姻状況別にみると、すべての婚姻状況で「参加したことがない」が最も多くなっている。

居住地別にみると、すべての居住地で「参加したことがない」が最も多くなっている。

図表 ボランティア活動の参加の有無

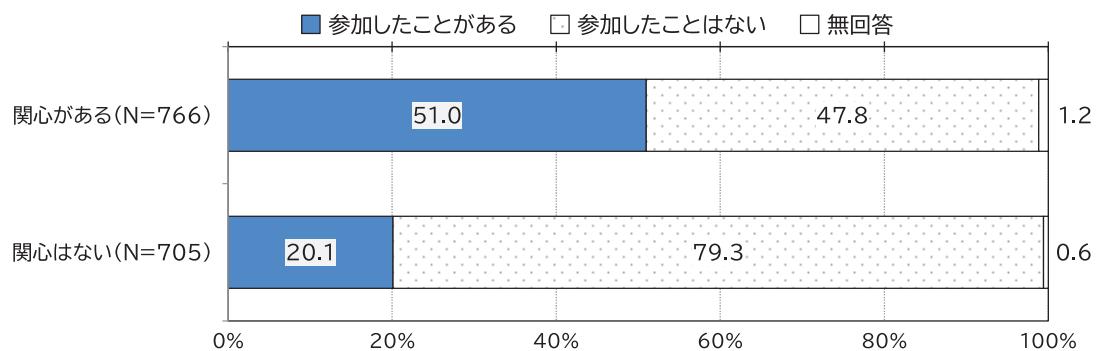


	調査数 (人)	(1) 参加した こと が ある	(2) 参 加 し た こと が な い	無 回 答
【表の見方】				
比率(%)				
網掛け=		1位	2位	
全体	1,512	35.7	63.0	1.3
性別				
男性	626	36.3	62.5	1.3
女性	877	35.1	63.6	1.3
その他	5	40.0	60.0	-
年代				
10歳代	22	72.7	27.3	-
20歳代	84	51.2	48.8	-
30歳代	138	50.7	48.6	0.7
40歳代	212	35.8	63.2	0.9
50歳代	265	32.8	66.0	1.1
60歳代	358	32.7	66.5	0.8
70歳以上	431	30.4	67.3	2.3
婚姻状況				
未婚	343	34.4	64.4	1.2
既婚	949	36.8	62.2	1.1
その他	210	33.3	64.8	1.9
お住まいの場所				
高知市	715	33.0	65.9	1.1
安芸広域圏	83	30.1	66.3	3.6
南国・香美広域圏	245	38.0	62.0	-
嶺北広域圏	25	40.0	56.0	4.0
仁淀川広域圏	118	33.9	65.3	0.8
高岡北広域圏	38	31.6	68.4	-
高幡広域圏	106	44.3	54.7	0.9
幡多広域圏	178	42.7	55.1	2.2

(★問8×問6のクロス分析)

ボランティア活動の関心度との関係をみると、ボランティア活動に関心があると回答した方は「参加したことがある」が51.0%となっており、一方で、ボランティア活動に関心がないと回答した方は「参加したことがある」が20.1%となっており、ボランティア活動に関心がある人の方が参加率が高いことが伺える。

図 ボランティア活動の参加の有無 －ボランティア活動の関心度との関係－



副問1 ボランティア活動の参加の有無（令和4年内）

問8で「1 参加したことがある」と回答した方にお聞きします。

副問1 あなたは、昨年一年間（令和4年1月～12月）にボランティア活動に参加したことがありますか。（当てはまるもの1つに○印）

全体では、「ある」（36.5%）、「ない」（58.3%）となっている。

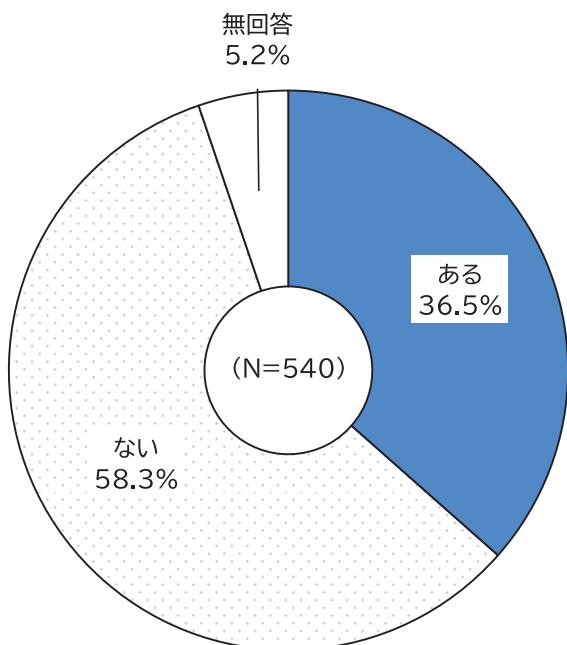
性別にみると、すべての性別で「ない」が最も多く、「ある」は女性（34.1%）より男性（40.1%）の方が多くなっている。

年代別にみると50歳代以下は「ない」、60歳代以上は「ある」が多くなっている。

婚姻状況別にみると、未婚、既婚は「ない」、その他は「ある」がそれぞれ多くなっている。

居住地別にみると、高知市、安芸広域圏、南国・香美広域圏、仁淀川広域圏、高吾北広域圏、幡多広域圏は「ない」、嶺北広域圏、高幡広域圏は「ある」がそれぞれ多くなっている。

図表 ボランティア活動の参加の有無（令和4年内）



		調査数 (人)	(1)		無回答
【表の見方】			ある	ない	
比率(%)		網掛け =			
全体		540	36.5	58.3	5.2
性別	男性	227	40.1	56.4	3.5
	女性	308	34.1	59.7	6.2
	その他	2	-	100.0	-
年代	10歳代	16	18.8	75.0	6.3
	20歳代	43	16.3	81.4	2.3
	30歳代	70	15.7	80.0	4.3
	40歳代	76	23.7	71.1	5.3
	50歳代	87	44.8	52.9	2.3
	60歳代	117	47.9	45.3	6.8
	70歳以上	131	48.1	45.0	6.9
婚姻状況	未婚	118	20.3	76.3	3.4
	既婚	349	39.5	55.0	5.4
	その他	70	47.1	45.7	7.1
お住まいの場所	高知市	236	29.2	66.1	4.7
	安芸広域圏	25	44.0	52.0	4.0
	南国・香美広域圏	93	40.9	59.1	-
	嶺北広域圏	10	60.0	30.0	10.0
	仁淀川広域圏	40	42.5	47.5	10.0
	高吾北広域圏	12	41.7	50.0	8.3
	高幡広域圏	47	46.8	42.6	10.6
	幡多広域圏	76	38.2	55.3	6.6

副問2 ボランティア活動の参加回数（令和4年内）

副問2（副問1で「1 ある」と回答した方にお聞きします。）

昨年一年間（令和4年1月～12月）に何回ほど活動しましたか。（当てはまるもの1つに○印）

全体では、「2～5回」（54.8%）が最も多く、次いで「1回のみ」（22.8%）、「11回以上」（15.7%）となっている。

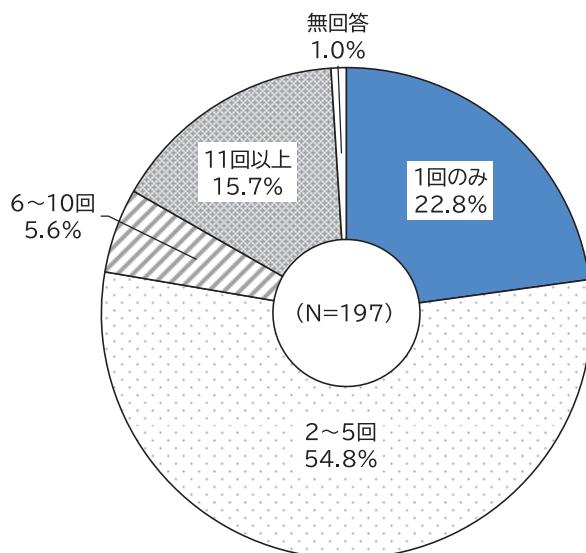
性別にみると、男性、女性ともに「2～5回」が最も多くなっている。

年代別にみると、10歳代は「1回のみ」（66.7%）、20歳代以上は「2～5回」がそれぞれ最も多くなっている。

婚姻状況別にみると、未婚は「1回以上」、既婚、その他は「2～5回」がそれぞれ最も多くなっている。

居住地別にみると、高岡北広域圏を除くすべての居住地で「2～5回」が最も多く、高岡北広域圏は「1回のみ」、「2～5回」（同率で40.0%）が最も多くなっている。

図表 ボランティア活動の参加回数（令和4年内）



【表の見方】	調査数 (人)	(1)				無回答
		1回のみ	2～5回	6～10回	11回以上	
比率(%) 網掛け=	1位 2位					
全体	197	22.8	54.8	5.6	15.7	1.0
性別						
男性	91	19.8	53.8	5.5	19.8	1.1
女性	105	25.7	55.2	5.7	12.4	1.0
その他	-	-	-	-	-	-
年代						
10歳代	3	66.7	33.3	-	-	-
20歳代	7	42.9	57.1	-	-	-
30歳代	11	36.4	45.5	-	18.2	-
40歳代	18	22.2	61.1	-	16.7	-
50歳代	39	23.1	51.3	7.7	15.4	2.6
60歳代	56	16.1	57.1	8.9	16.1	1.8
70歳以上	63	22.2	55.6	4.8	17.5	-
婚姻状況						
未婚	24	54.2	37.5	-	4.2	4.2
既婚	138	18.1	58.7	5.8	17.4	-
その他	33	18.2	54.5	9.1	15.2	3.0
お住まいの場所						
高知市	69	24.6	47.8	5.8	18.8	2.9
安芸広域圏	11	27.3	54.5	9.1	9.1	-
南国・香美広域圏	38	10.5	84.2	2.6	2.6	-
嶺北広域圏	6	16.7	66.7	-	16.7	-
仁淀川広域圏	17	29.4	47.1	5.9	17.6	-
高岡北広域圏	5	40.0	40.0	-	20.0	-
高幡広域圏	22	22.7	45.5	4.5	27.3	-
幡多広域圏	29	27.6	44.8	10.3	17.2	-

副問3 参加したことのあるボランティア活動の分野

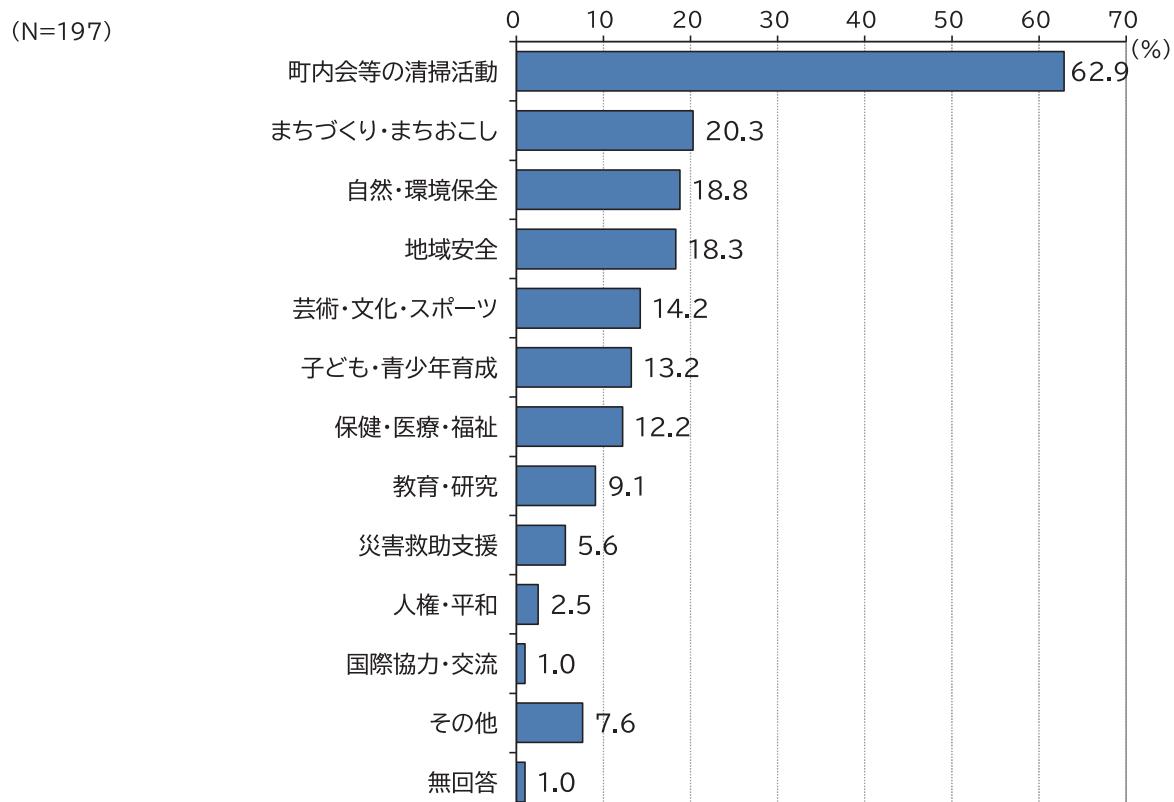
副問3（副問1で「1 ある」と回答した方にお聞きします。）

どのような分野の活動に参加しましたか。（当てはまるものすべてに○印）

全体では、「町内会等の清掃活動」(62.9%) が最も多く、次いで「まちづくり・まちおこし」(20.3%)、「自然・環境保全」(18.8%)、「地域安全」(18.3%) となっている。

また、「その他」の主だった意見は、「こども食堂への材料（野菜等）の提供」、「高齢者とのふれあい活動」、「ふれあい場所での園芸（草とり、花植え）」などとなっている。

図 参加したことのあるボランティア活動の分野



性別にみると、男性、女性ともに「町内会等の清掃活動」が最も多く、次いで男性は「地域安全」、女性は「まちづくり・まちおこし」となっている。

年代別にみると、すべての年代で「町内会等の清掃活動」が最も多く、20歳代は「まちづくり・まちおこし」、「教育・研究」(同率で28.6%)も最も多くなっている。

婚姻状況別にみると、未婚は「町内会等の清掃活動」、「子ども・青少年育成」(同率で29.2%)、既婚、その他は「町内会等の清掃活動」がそれぞれ最も多くなっている。

居住地別にみると、すべての居住地で「町内会等の清掃活動」が最も多くなっている。

図 参加したことのあるボランティア活動の分野

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)		
【表の見方】		調査数（人）	町内会等の清掃活動	まちづくり・まちおこし	自然・環境保全	地域安全	芸術・文化・スポーツ	子ども・青少年育成	保健・医療・福祉	教育・研究	災害救助支援	人権・平和	国際協力・交流	その他	無回答
比率(%) 網掛け=			1位	2位											
性別	全体	197	62.9	20.3	18.8	18.3	14.2	13.2	12.2	9.1	5.6	2.5	1.0	7.6	1.0
	男性	91	69.2	20.9	23.1	25.3	20.9	12.1	11.0	11.0	7.7	4.4	-	4.4	1.1
	女性	105	57.1	20.0	15.2	12.4	8.6	14.3	13.3	7.6	3.8	1.0	1.9	10.5	1.0
年齢	その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	10歳代	3	66.7	-	-	-	-	33.3	-	-	-	-	-	-	-
	20歳代	7	28.6	28.6	14.3	14.3	-	14.3	-	28.6	-	-	-	-	-
	30歳代	11	63.6	18.2	18.2	18.2	36.4	27.3	9.1	27.3	9.1	9.1	9.1	-	-
	40歳代	18	27.8	11.1	16.7	22.2	16.7	22.2	5.6	11.1	-	-	-	-	-
	50歳代	39	71.8	20.5	15.4	12.8	12.8	12.8	10.3	5.1	5.1	-	2.6	2.6	-
	60歳代	56	69.6	26.8	17.9	26.8	8.9	12.5	17.9	8.9	8.9	5.4	-	12.5	-
	70歳以上	63	65.1	17.5	23.8	14.3	17.5	7.9	12.7	6.3	4.8	1.6	-	11.1	3.2
婚姻状況	未婚	24	29.2	16.7	12.5	12.5	4.2	29.2	8.3	12.5	4.2	-	4.2	-	-
	既婚	138	68.8	22.5	21.0	20.3	15.9	13.8	13.8	9.4	4.3	2.9	0.7	10.1	1.4
	その他	33	63.6	15.2	15.2	15.2	9.1	-	9.1	6.1	12.1	3.0	-	3.0	-
お住まいの場所	高知市	69	59.4	14.5	21.7	17.4	11.6	20.3	10.1	5.8	2.9	2.9	1.4	8.7	-
	安芸広域圏	11	63.6	45.5	18.2	45.5	27.3	9.1	-	18.2	-	-	-	18.2	-
	南国・香美広域圏	38	63.2	13.2	21.1	18.4	10.5	10.5	10.5	-	5.3	-	-	7.9	2.6
	嶺北広域圏	6	83.3	50.0	33.3	-	-	-	16.7	16.7	-	-	-	16.7	-
	仁淀川広域圏	17	64.7	5.9	11.8	11.8	-	17.6	5.9	17.6	5.9	-	5.9	5.9	5.9
	高岡北広域圏	5	60.0	40.0	20.0	20.0	40.0	-	40.0	-	-	-	-	-	-
	高幡北広域圏	22	77.3	27.3	4.5	22.7	31.8	9.1	22.7	18.2	18.2	4.5	-	-	-
	幡多広域圏	29	55.2	27.6	20.7	13.8	13.8	6.9	13.8	13.8	6.9	6.9	-	6.9	-

副問4 ボランティア活動に参加した理由

副問4（副問1で「1 ある」と回答した方にお聞きします。）

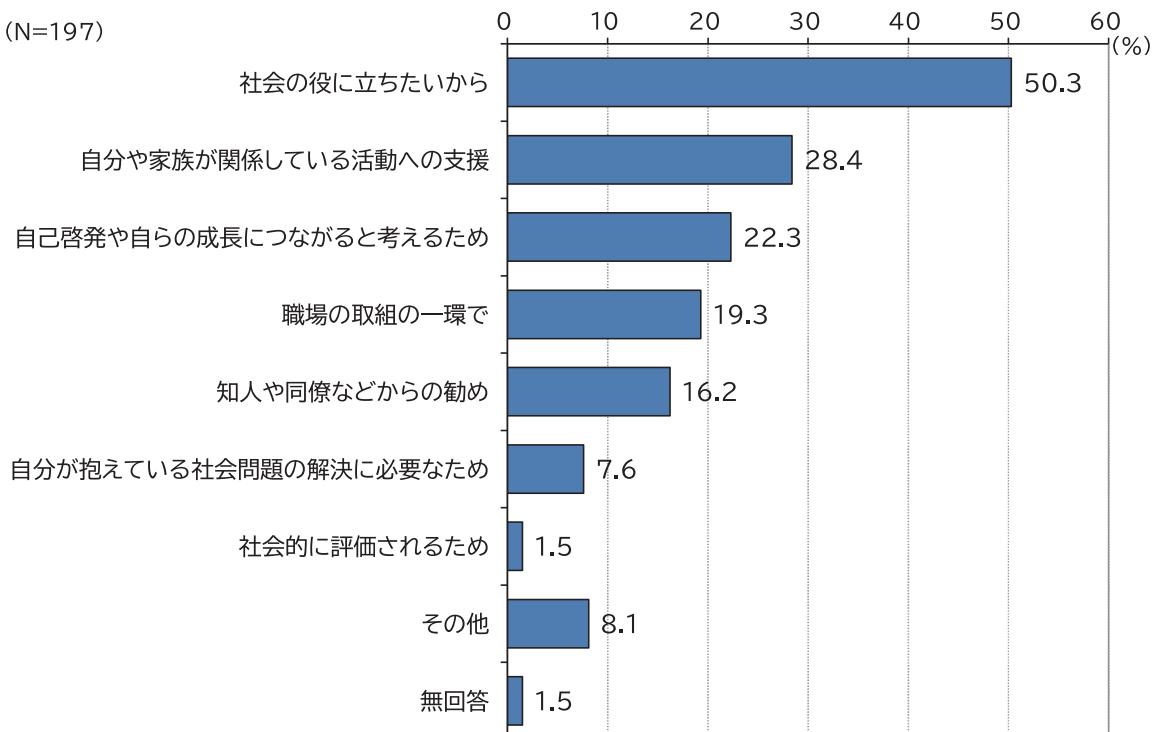
ボランティア活動に参加した理由は何ですか。（当てはまるものすべてに○印）

全体では、「社会の役に立ちたいから」(50.3%)が最も多く、次いで「自分や家族が関係している活動への支援」(28.4%)、「自己啓発や自らの成長につながると考えるため」(22.3%)、「職場の取組の一環で」(19.3%)となっている。

また、「その他」の主だった意見は、「美しい川を守ってゆくため」、「地域の人々や子供たちと関われるから」、「地域の取組の一環」などとなっている。

図 ボランティア活動に参加した理由

(N=197)



性別にみると、男性、女性ともに「社会の役に立ちたいから」が最も多くなっている。

年代別にみると、20歳代は「自己啓発や自らの成長につながると考えるため」(57.1%)、30歳代、50歳代以上は「社会の役に立ちたいから」、40歳代は「社会の役に立ちたいから」、「職場の取組の一環で」(同率で38.9%)がそれぞれ最も多くなっている。

婚姻状況別にみると、未婚は「自己啓発や自らの成長につながると考えるため」(37.5%)、既婚、その他は「社会の役に立ちたいから」がそれぞれ最も多くなっている。

居住地別にみると、安芸広域圏を除くすべての居住地で「社会の役に立ちたいから」が最も多く、安芸広域圏は「社会の役に立ちたいから」、「自分や家族が関係している活動への支援」(同率で54.5%)が最も多くなっている。

表 ボランティア活動に参加した理由

【表の見方】		調査数 (人)	(1) 社会の役に立ちたいから	(2) 活動自分へやの家族支援が関係している	(3) な自分がると考えるため成長につ	(4) 職場の取組の一環で	(5) 知人や同僚などからの勧め	(6) の自分で解決がに抱え必要ないたため社会問題	(7) 社会的に評価されるため	(8) その他	無回答
比率(%)	網掛け=	1位 2位									
性別	男性	91	53.8	28.6	24.2	20.9	18.7	11.0	3.3	7.7	2.2
	女性	105	46.7	28.6	21.0	18.1	14.3	4.8	-	8.6	1.0
	その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
年齢	10歳代	3	-	33.3	33.3	33.3	-	-	-	33.3	-
	20歳代	7	-	-	57.1	28.6	28.6	-	-	14.3	-
	30歳代	11	54.5	27.3	27.3	36.4	18.2	18.2	-	9.1	-
	40歳代	18	38.9	27.8	5.6	38.9	5.6	-	-	-	-
	50歳代	39	41.0	38.5	28.2	35.9	17.9	10.3	2.6	5.1	2.6
	60歳代	56	48.2	28.6	26.8	10.7	21.4	7.1	1.8	16.1	-
	70歳以上	63	68.3	25.4	14.3	6.3	12.7	7.9	1.6	3.2	3.2
婚姻状況	未婚	24	16.7	8.3	37.5	33.3	20.8	4.2	-	12.5	-
	既婚	138	55.1	34.8	22.5	17.4	15.9	10.1	2.2	8.0	2.2
	その他	33	57.6	18.2	12.1	18.2	9.1	-	-	6.1	-
お住まいの場所	高知市	69	47.8	26.1	27.5	18.8	11.6	8.7	1.4	8.7	-
	安芸広域圏	11	54.5	54.5	9.1	-	18.2	18.2	-	27.3	-
	南国・香美広域圏	38	47.4	42.1	10.5	13.2	18.4	7.9	-	5.3	2.6
	嶺北広域圏	6	66.7	33.3	16.7	33.3	-	-	-	-	-
	仁淀川広域圏	17	52.9	23.5	17.6	11.8	23.5	-	-	-	11.8
	高岡北広域圏	5	60.0	-	40.0	-	20.0	-	-	20.0	-
	高幡広域圏	22	40.9	22.7	22.7	27.3	22.7	9.1	4.5	9.1	-
	幡多広域圏	29	58.6	17.2	31.0	34.5	17.2	6.9	3.4	6.9	-

副問5 ボランティア活動に参加した直接的なきっかけ

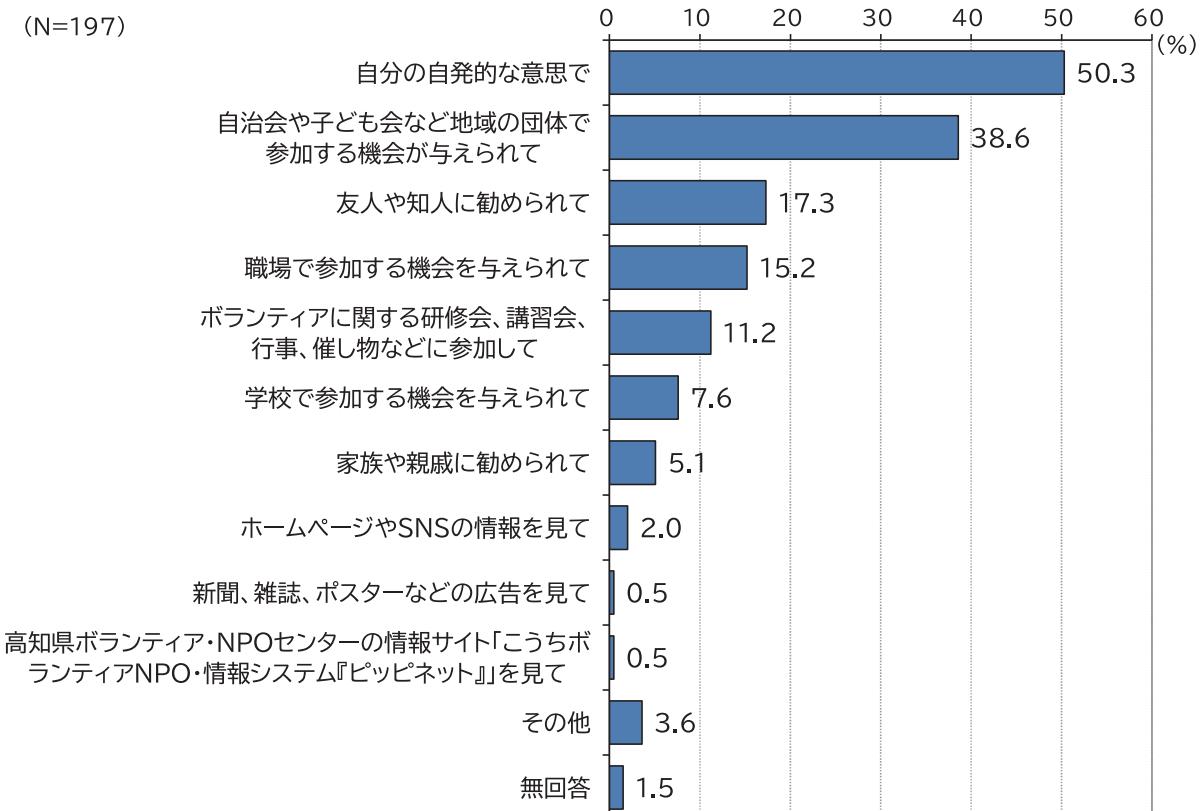
副問5（副問1で「1 ある」と回答した方にお聞きします。）

ボランティア活動に参加した直接的なきっかけは何ですか。（当てはまるものすべてに○印）

全体では、「自分の自発的な意思で」(50.3%) が最も多く、次いで「自治会や子ども会など地域の団体で参加する機会が与えられて」(38.6%)、「友人や知人に勧められて」(17.3%)、「職場で参加する機会を与えられて」(15.2%) となっている。

また、「その他」の主だった意見は、「地域団体のすすめ」、「なりゆき」などとなっている。

図 ボランティア活動に参加した直接的なきっかけ



性別にみると、男性、女性ともに「自分の自発的な意思で」が最も多くなっている。

年代別にみると、30歳代、50歳代以上は「自分の自発的な意思で」が最も多くなっている。

婚姻状況別にみると、未婚、既婚は「自分の自発的な意思で」、その他は「自治会や子ども会など地域の団体で参加する機会が与えられて」(45.5%) がそれぞれ最も多くなっている。

居住地別にみると、南国・香美広域、嶺北広域圏を除くすべての居住地で「自分の自発的な意思で」が最も多く、南国・香美広域、嶺北広域圏は「自治会や子ども会など地域の団体で参加する機会が与えられて」が最も多くなっている。

表 ボランティア活動に参加した直接的なきっかけ

	(1) 自 分 の 自 発 的 な 意 思 で	(2) 自 治 会 や 子 ど も 会 な ど 地 域 の 団 体 で 参 加	(3) 友 人 や 知 人 に 勧 め ら れ て	(4) 職 場 で 参 加 す る 機 会 を 与 え ら れ て	(5) 行 ボ ラ ー ン 催 し 物 な ど に 関 す る 研 修 会 、 講 習 会 、	(6) 学 校 で 参 加 す る 機 会 を 与 え ら れ て	(7) 家 族 や 親 戚 に 勧 め ら れ て	(8) ホ ー ム ペ ー ジ や S N S の 情 報 を 見 て	(9) 新 聞 、 雑 誌 、 ポ ス タ ー な ど の 広 告 を 見 て	(10) 報 報 高 シ サ イ 県 ス テ ム ボ ム 『 こ ン ビ う テ ッ チ イ ビ ボ ア ・ ツ ン N ト テ P 』 『 ア セ ン P タ O ・ の 情 情	(11) そ の 他	無 回 答	
【表の見方】													
比率(%)													
網掛け =													
	1位												
	2位												
全体	197	50.3	38.6	17.3	15.2	11.2	7.6	5.1	2.0	0.5	0.5	3.6	1.5
性別													
男性	91	56.0	44.0	19.8	15.4	12.1	9.9	4.4	2.2	-	1.1	5.5	1.1
女性	105	45.7	33.3	15.2	15.2	10.5	5.7	5.7	1.9	1.0	-	1.9	1.9
その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
年代													
10歳代	3	-	33.3	33.3	33.3	-	33.3	-	-	-	-	-	-
20歳代	7	42.9	14.3	14.3	42.9	-	42.9	-	-	-	-	-	-
30歳代	11	63.6	36.4	9.1	27.3	9.1	18.2	9.1	-	-	9.1	-	9.1
40歳代	18	33.3	33.3	-	16.7	5.6	11.1	-	5.6	-	-	-	-
50歳代	39	46.2	38.5	17.9	30.8	7.7	5.1	2.6	2.6	2.6	-	2.6	2.6
60歳代	56	48.2	41.1	19.6	10.7	12.5	8.9	8.9	1.8	-	-	5.4	1.8
70歳以上	63	60.3	41.3	20.6	3.2	15.9	-	4.8	1.6	-	-	4.8	-
婚姻状況													
未婚	24	41.7	12.5	12.5	20.8	-	20.8	4.2	4.2	-	-	4.2	4.2
既婚	138	55.1	42.0	18.1	15.2	12.3	5.8	5.1	2.2	0.7	0.7	4.3	0.7
その他	33	36.4	45.5	12.1	12.1	15.2	6.1	6.1	-	-	-	-	3.0
お住まいの場所													
高知市	69	49.3	36.2	8.7	14.5	7.2	7.2	1.4	4.3	1.4	-	5.8	1.4
安芸広域圏	11	72.7	36.4	9.1	-	18.2	9.1	27.3	-	-	9.1	-	-
南国・香美広域圏	38	36.8	60.5	13.2	10.5	15.8	2.6	5.3	-	-	-	5.3	2.6
嶺北広域圏	6	16.7	66.7	16.7	33.3	16.7	16.7	-	-	-	-	-	-
仁淀川広域圏	17	58.8	29.4	17.6	11.8	-	11.8	5.9	5.9	-	-	-	-
高岡北広域圏	5	80.0	20.0	40.0	20.0	-	-	-	-	-	-	-	-
高幡広域圏	22	50.0	45.5	36.4	13.6	22.7	9.1	4.5	-	-	-	4.5	4.5
幡多広域圏	29	58.6	13.8	27.6	27.6	10.3	10.3	6.9	-	-	-	-	-

問9 こうちボランティアNPO・情報システム『ピッピネット』の認知度

ボランティア募集情報などを掲載している情報サイト「こうちボランティアNPO・情報システム『ピッピネット』」を知っていますか。(当てはまるもの1つに○印)

全体では、「知っている」(3.6%)、「知らない」(93.4%)となっている。

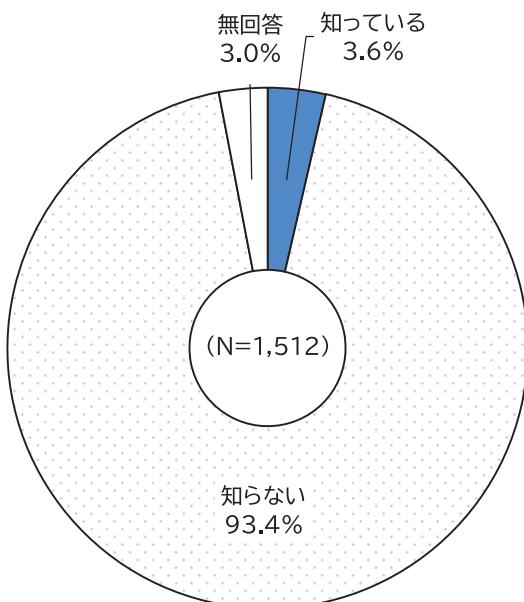
性別にみると、すべての性別で「知らない」が9割以上となっている。

年代別にみると、すべての年代で「知らない」が9割以上となっており、「知っている」は40歳代(6.6%)が他の年代と比べて多くなっている。

婚姻状況別にみると、すべての婚姻状況で「知らない」が9割以上となっている。

居住地別にみると、高幡広域圏を除くすべての居住地で「知らない」が9割以上となっており、「知っている」は高吾北広域圏(5.3%)が他の居住地と比べて多くなっている。

図表 こうちボランティアNPO・情報システム『ピッピネット』の認知度



【表の見方】 比率(%) 網掛け = 1位 2位	調査数 (人)	(1)			(2)	
		知っている	知らない	無回答		
全体	1,512	3.6	93.4	3.0		
性別						
男性	626	2.4	95.0	2.6		
女性	877	4.6	92.2	3.2		
その他	5	-	100.0	-		
年代						
10歳代	22	-	100.0	-		
20歳代	84	3.6	96.4	-		
30歳代	138	4.3	94.2	1.4		
40歳代	212	6.6	92.0	1.4		
50歳代	265	4.2	94.0	1.9		
60歳代	358	1.4	96.1	2.5		
70歳以上	431	3.7	90.3	6.0		
婚姻状況						
未婚	343	2.9	95.3	1.7		
既婚	949	4.0	93.3	2.7		
その他	210	3.3	91.4	5.2		
お住まいの場所						
高知市	715	3.2	93.7	3.1		
安芸広域圏	83	3.6	94.0	2.4		
南国・香美広域圏	245	4.5	93.5	2.0		
嶺北広域圏	25	4.0	96.0	-		
仁淀川広域圏	118	2.5	92.4	5.1		
高吾北広域圏	38	5.3	92.1	2.6		
高幡広域圏	106	4.7	89.6	5.7		
幡多広域圏	178	3.9	94.4	1.7		

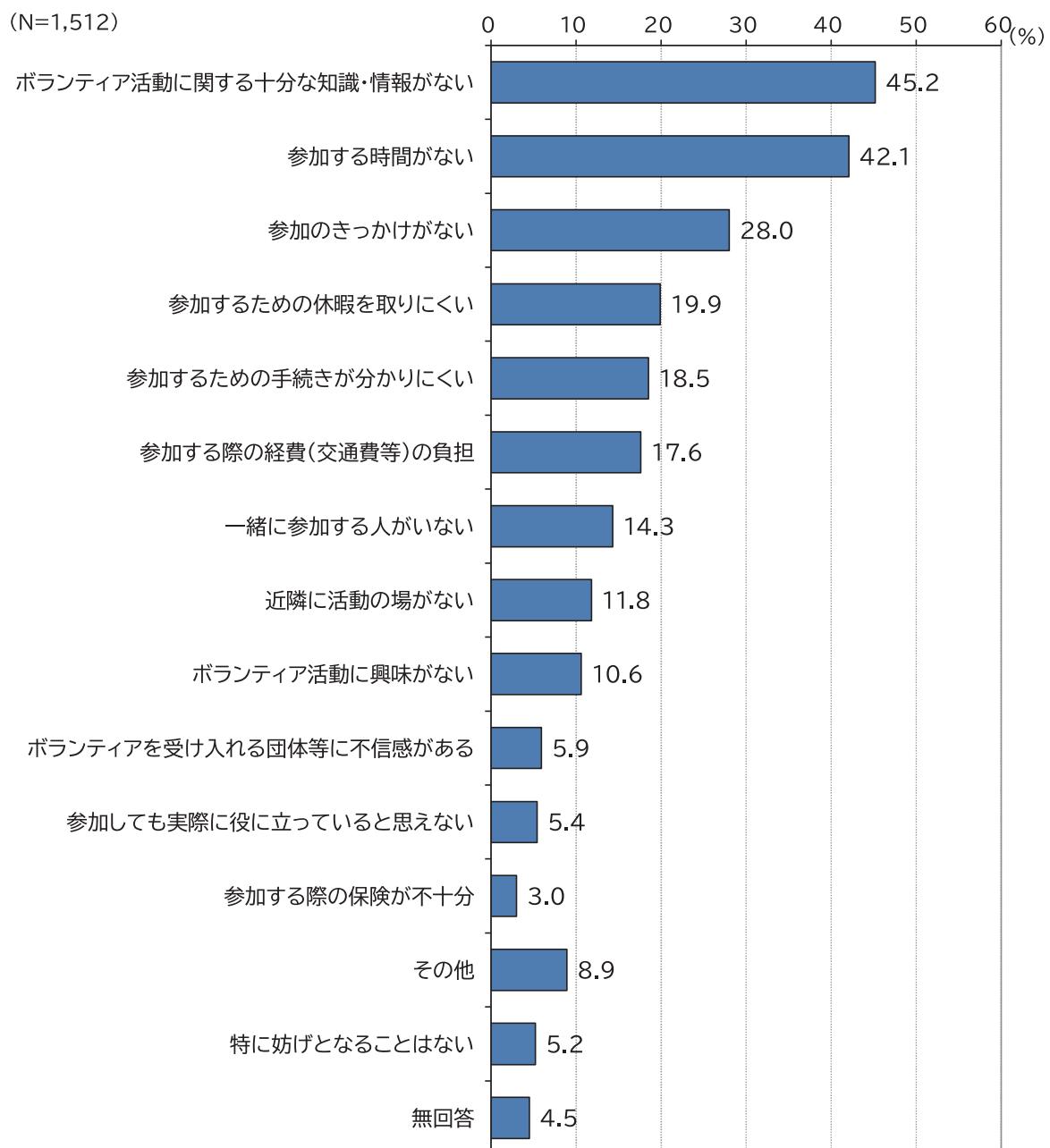
問10 ボランティア活動への参加の妨げとなること

ボランティア活動への参加の妨げとなることがあれば、それはどのようなことですか。(当てはまるものすべてに○印)

全体では、「ボランティア活動に関する十分な知識・情報がない」(45.2%)が最も多く、次いで「参加する時間がない」(42.1%)、「参加のきっかけがない」(28.0%)、「参加するための休暇を取りにくい」(19.9%)となっている。

また、「その他」の主だった意見は、「健康上の問題」、「高齢のため役に立つかわからないから」などとなっている。

図 ボランティア活動への参加の妨げとなること



性別にみると、男性、女性ともに「ボランティア活動に関する十分な知識・情報がない」が最も多く、次いで「参加する時間がない」となっている。

年代別にみると、10歳代、60歳代以上は「ボランティア活動に関する十分な知識・情報がない」、20~50歳代は「参加する時間がない」がそれぞれ最も多くなっている。

婚姻状況別にみると、すべての婚姻状況で「ボランティア活動に関する十分な知識・情報がない」が最も多く、次いで「参加する時間がない」となっている。

居住地別にみると、高知市、南国・香美広域圏、高岡北広域圏、高幡広域圏、幡多広域圏は「ボランティア活動に関する十分な知識・情報がない」が最も多く、安芸広域圏、嶺北広域圏、仁淀川広域圏では「参加する時間がない」がそれぞれ最も多くなっている。

表 ボランティア活動への参加の妨げとなること

【表の見方】		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	(14)	無回答	
	調査数(人)	知ボランティア活動に関する十分な情報をア イア活 动に 関する十分な	参 加する 時間が ない	参 加の きつ かけが ない	参 加するための休暇を 取りにく い	<参 加するための手 続きが 分かりに ない	負担 参加する際の経費(交通費等)の	一 緒に 参加する人 がい ない	近隣に活動の場が ない	ボランティア活動に興味が ない	ボランティア活動に不 信感が あるを受 け入れる 団体等	と参 加思 てないも実際 に役に立 つて いる	参 加する際の保険が 不十分	その 他	特 に妨げとな るこ とは ない		
比率(%)	網掛け=	1位 2位															
【表の見方】																	
性別																	
全体	1,512	45.2	42.1	28.0	19.9	18.5	17.6	14.3	11.8	10.6	5.9	5.4	3.0	8.9	5.2	4.5	
男性	626	44.4	41.9	27.2	22.4	20.0	17.3	11.5	12.0	14.4	7.7	6.1	4.0	5.6	6.1	3.0	
女性	877	46.1	42.3	28.5	18.2	17.3	17.7	16.2	11.4	7.5	4.6	5.0	2.3	11.2	4.7	5.4	
その他	5	40.0	60.0	40.0	20.0	40.0	60.0	40.0	40.0	60.0	20.0	-	20.0	40.0	-	-	
年代																	
10歳代	22	54.5	40.9	22.7	18.2	18.2	22.7	22.7	13.6	4.5	4.5	9.1	4.5	4.5	4.5	-	
20歳代	84	48.8	60.7	28.6	29.8	22.6	23.8	25.0	10.7	11.9	6.0	4.8	4.8	2.4	6.0	-	
30歳代	138	44.2	56.5	35.5	37.0	22.5	24.6	21.0	10.1	9.4	7.2	5.8	2.9	1.4	5.1	1.4	
40歳代	212	42.0	53.8	30.7	33.0	20.8	25.9	17.0	11.8	13.2	12.3	6.1	4.7	4.7	3.3	1.9	
50歳代	265	50.6	55.5	32.5	30.6	20.8	19.2	11.7	14.7	10.6	8.3	5.3	4.5	4.5	2.3	1.1	
60歳代	358	51.1	40.5	27.1	15.1	21.5	17.9	14.0	10.3	9.2	3.4	6.4	2.5	7.0	6.7	3.4	
70歳以上	431	38.1	21.6	22.7	3.7	11.6	8.6	10.2	11.8	10.7	3.0	4.2	1.4	19.3	6.7	10.7	
状況																	
未婚	343	45.2	42.9	32.4	24.8	21.3	23.9	18.1	10.5	15.7	8.5	5.8	4.7	5.5	4.7	1.7	
既婚	949	44.9	44.8	27.6	20.5	17.9	15.3	12.4	12.0	9.5	5.4	5.2	2.7	9.2	4.7	3.9	
その他(離別・死別含む)	210	48.1	30.0	23.8	10.0	17.1	17.1	16.2	12.9	7.1	4.3	5.7	1.4	13.3	7.6	10.5	
高知市	715	48.3	42.9	30.3	20.3	19.9	18.2	14.3	12.0	11.9	7.1	5.5	3.4	8.1	4.5	4.1	
お住まいの場所	安芸広域圏	83	42.2	51.8	22.9	26.5	12.0	15.7	12.0	18.1	10.8	6.0	7.2	2.4	10.8	7.2	4.8
南国・香美広域圏	245	45.7	42.0	23.7	17.6	19.6	18.4	15.1	11.4	8.6	4.5	4.5	4.9	13.9	4.5	4.1	
高岡北広域圏	25	28.0	40.0	32.0	12.0	4.0	8.0	8.0	4.0	12.0	12.0	8.0	-	16.0	4.0	4.0	
仁淀川広域圏	118	34.7	43.2	28.0	25.4	19.5	16.1	14.4	11.0	9.3	5.1	5.9	1.7	8.5	5.1	5.1	
高幡広域圏	38	50.0	42.1	26.3	7.9	21.1	18.4	15.8	13.2	13.2	-	5.3	2.6	10.5	5.3	-	
幡多広域圏	106	38.7	34.9	27.4	17.9	14.2	18.9	13.2	11.3	9.4	6.6	8.5	3.8	6.6	9.4	9.4	
	178	46.6	39.3	28.1	20.2	18.0	16.9	15.2	10.1	9.0	3.4	3.4	0.6	4.5	6.2	3.4	

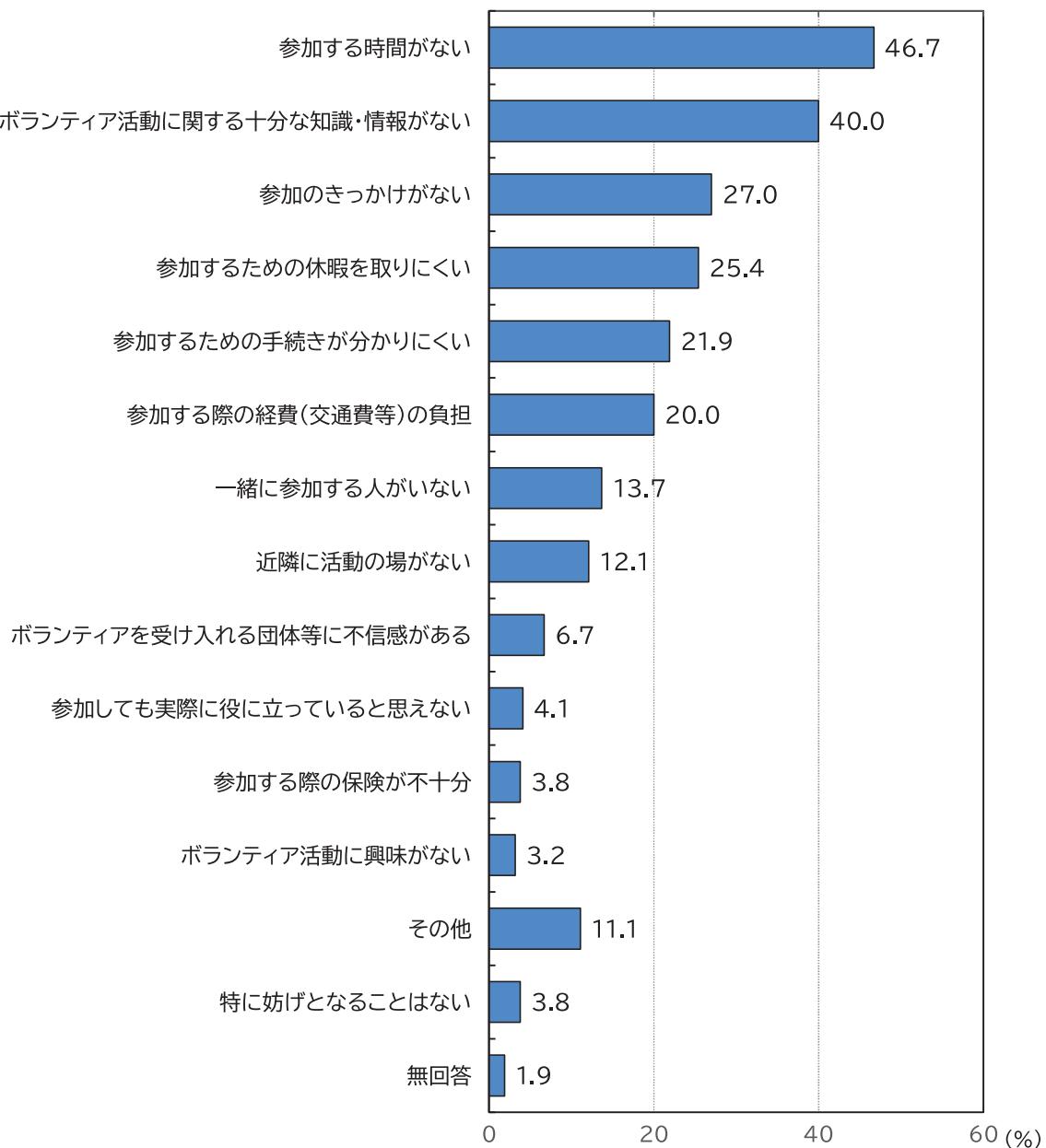
(★問10×問8副問1のクロス分析)

(令和4年内に)ボランティア活動に参加したことがないと回答した方との関係をみると、「参加する時間がない」(46.7%)が最も多く、次いで「ボランティア活動に関する十分な知識・情報がない」(40.0%)、「参加のきっかけがない」(27.0%)となって いる。

図 ボランティア活動への参加の妨げとなること
– (令和4年内に)ボランティア活動に参加したことがないと回答した方との関係 –

(N=315)

■ (ボランティア活動に参加したことが)ない



問11 NPOに対するイメージ（自由意見）

あなたは、NPO（NPO法人、市民活動団体、ボランティア団体）にどのようなイメージを持っていますか。（自由記載）

主な意見は以下のとおり。

図 NPOに対するイメージ（自由意見）

【1. 良い印象について】

No.	意見	性別	年代
1	社会を良くしていくのに、志しのある人が積極的に活躍をしているのは大変良いことだと思う。	男性	40歳代
2	社会に役立つ活動、とくに災害ボランティアの方々の活動は、メディア等に見る毎、とても感心しています。	女性	60歳代
3	誰かの役にたっているという良いイメージです。ただし、今のご時世、詐欺とかも心配されるので、どのような団体なのかネット等で調べることは大切なと思っています。肩書きに“〇〇県”とか“〇〇省”とか書かれていると安易に信頼してしまう傾向は、中高年以上に多いとも感じます。	女性	50歳代
4	一人ではできない（限界がある）ところを色々の人々が結集して、より良い社会の為に貢献するという考えはすばらしいと思う。	女性	70歳以上
5	非営利のボランティアという良いイメージ。最近の悪いニュースで、良い団体ばかりではないということがわかった。	女性	40歳代
6	問題点を見つけて、それを解決する為に、活動している団体というイメージ。詳しくはわかりません。そういう活動をされている方の事は素晴らしいと思っています。（自分にはできないので。）	女性	50歳代
7	とても良い活動だと思う。自分も参加する事により社会勉強にもなったし、活動を通して友達もできた。	女性	20歳代
8	自発的に社会への奉仕、貢献活動にかかわりを持つという事なので良いイメージしかない。	女性	60歳代
9	営利目的ではなく、地域の人たちに向けた活動を行っていて良いイメージがある。	男性	10歳代
10	行政ができない事、できていない所を埋めていく事と思っている。このような団体に、もう少し国から支援があれば良いかと何時も思っています。行政がもっと無駄な所をはぶいて、各団体にお金をまわして欲しい。各団体は、やりくりして運営してると思う。NPOがアメリカで設立させたが、あまり当初から良い方向には行っていないように思う。	女性	70歳以上

【2. 災害救助活動について】

No.	意見	性別	年代
1	人を助けてくれる（特に災害時のとき）	男性	60歳代
2	社会に役立つ活動、とくに災害ボランティアの方々の活動は、メディア等に見る毎、とても感心しています。	男性	60歳代
3	災害時などボランティアが重要。	女性	50歳代

【3. あまり良くない印象について】

No.	意見	性別	年代
1	良い事をしているから、偉いと思って考えなどを押し付けてくる感じがする。田舎になればなるほど、地域の人間関係が濃くて半強制的な圧力を感じるし、する人としない人で温度差が激しい。	女性	40歳代
2	・一生懸命に尽くしている人々もいれば、助成金等を最大限使って（民間であれば資金を投入するところ）『上手に』商売をしているところもある。経営が成り立たないのは法人たる目的に反するけれど、原資＝血税であるので、公平性に疑問を感じるケースがある。・商売や、宗教につながっているであろう団体の見極めが難しい。公共のイベントで耳障りの良いことを訴える団体にも、疑わしい団体がある。	女性	50歳代
3	一部は健全な団体だと思うが、一部の行動によってよい印象は抱いていない。	男性	20歳代
4	公金を無駄に使っている団体があり、問題になっている。本当に必要な団体なのか、団体の資金、活動を監視することができるのか、法人や団体を作ることだけを目的とし、公金を無駄にしているのではないか。疑問です。	男性	70歳以上
5	NPOという団体が多すぎると、不信感がある。←何を信じていいか分からぬ。	女性	60歳代
6	NPO=ボランティアとは良い団体というイメージがあるがNPO法人を利用して不正に利益を得ている等のニュースもあり、悪いイメージもある。	女性	40歳代

【4. 情報発信について】

No.	意見	性別	年代
1	不信感しかない。何をしているのか、活動内容が分からぬ。	男性	40歳代
2	実際に社会のためにになっている団体と、存続のためだけに実績を集めている様な、見せかけの団体とが混在しており、一般的に名の知れた団体以外はいざ調べてみなければ両者のどちらなのかが分からぬいため、疑いの目を向けてしまう。	男性	20歳代
3	閉鎖的、イメージがわきにくい。	男性	30歳代
4	県や市などの関連のボランティア団体なら、わかりやすいが、一般の団体はどんな活動をしているのかが、わかりにくい。	女性	40歳代
5	NPO（活動団体、ボランティア）は何を行っているのか、すぐには理解しづらい。又会費及び寄付などの使い道が解からないだらけです。	女性	70歳以上
6	悪いイメージはないけれど、はっきり言って何なのかよくわからない。	女性	60歳代
7	活動の状況がわからない。（情報発信が感じられない。）	男性	70歳以上
8	多種多様なNPOがあり、信頼できる法人か否か判断できる材料が乏しい。	女性	50歳代
9	社会貢献に、役立っている事は、理解出来ますが、もっと個人に対応出来る情報（行き渡る情報）が、必要なのではないかと思います。私が勤めている会社も活動に参加している事は存じております。	女性	60歳代
10	市民活動や今までの活動はわかりやすいのですがNPO法人になるといろいろな団体があってよく理解が出来ません。どんなNPOがあるのか一覧表があればいいのですが。	女性	60歳代
11	自宅でくわしい情報が伝わらないので、よくわからない。市民での活動団体は子供食堂や食料支援など毎月やっているが、他の団体のことは、くわしい情報がわからない。	女性	70歳以上
12	身近に活動を確認したことがなく、意識して自分自身積極的に活動にも参加しないのでイメージはあまりわかない。参加チラシなどが回って来た時、地域の清掃活動に出る程度なので、もっと広く広報するなどが必要かと・・・！	女性	60歳代

問12 社会にとってNPOは必要だと思うか

あなたは、社会にとってNPO（NPO法人、市民活動団体、ボランティア団体）は必要だと思いますか。（当てはまるもの1つに○印）

全体では、「必要だと思う」（58.1%）が最も多く、次いで「どちらとも言えない」（32.1%）、「特に必要とは思わない」（5.0%）となっている。

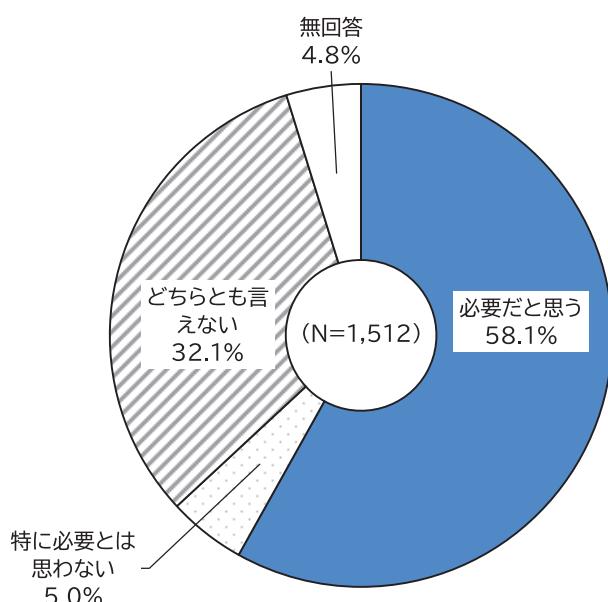
性別にみると、男性、女性ともに「必要だと思う」が5割以上となっており、その他は「必要だと思う」、「どちらとも言えない」が同率で40.0%となっている。

年代別にみると、すべての年代で「必要だと思う」が5割以上となっており、特に60歳代は62.0%と最も多くなっている。

婚姻状況別にみると、すべての婚姻状況で「必要だと思う」が5割以上となっており、特に既婚は60.6%と最も多くなっている。

居住地別にみると、すべての居住地で「必要だと思う」が4割以上となっており、特に嶺北広域圏は68.0%と最も多くなっている。

図表 社会にとってNPOは必要だと思うか

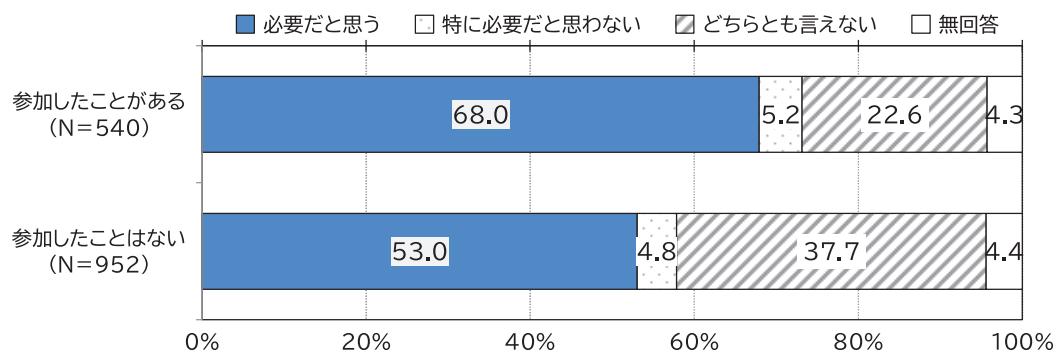


【表の見方】 比率(%) 網掛け = 1位 2位	調査数 (人)	(1) 必要だと思う			無回答
		(2) 特に必要とは思わない	(3) どちらとも言えない		
全体	1,512	58.1	5.0	32.1	4.8
性別					
男性	626	55.1	6.9	32.9	5.1
女性	877	60.3	3.5	31.7	4.4
その他	5	40.0	20.0	40.0	-
年代					
10歳代	22	59.1	-	40.9	-
20歳代	84	61.9	4.8	33.3	-
30歳代	138	51.4	5.1	41.3	2.2
40歳代	212	54.2	7.1	36.8	1.9
50歳代	265	58.1	4.5	34.3	3.0
60歳代	358	62.0	5.9	27.9	4.2
70歳以上	431	58.2	3.5	28.5	9.7
婚姻状況					
未婚	343	53.4	6.1	38.2	2.3
既婚	949	60.6	4.6	30.2	4.5
その他	210	55.7	4.8	30.5	9.0
お住まいの場所					
高知市	715	57.8	4.3	33.4	4.5
安芸広域圏	83	49.4	7.2	37.3	6.0
南国・香美広域圏	245	62.0	6.5	28.2	3.3
嶺北広域圏	25	68.0	-	28.0	4.0
仁淀川広域圏	118	53.4	3.4	35.6	7.6
高岡北広域圏	38	57.9	5.3	28.9	7.9
高幡広域圏	106	57.5	6.6	30.2	5.7
幡多広域圏	178	59.6	5.1	30.9	4.5

(★問12×問8のクロス分析)

ボランティア活動の参加の有無との関係をみると、ボランティア活動に参加したことがあると回答した方は「必要だと思う」が68.0%となっており、一方で、ボランティア活動に参加したことないと回答した方は「必要だと思う」が53.0%、「どちらとも言えない」が37.7%となっており、ボランティア活動に参加したことがある人の方がNPOは必要だと思うと回答した割合が高いことが伺える。

図 社会にとってNPOは必要だと思うか ーボランティア活動の参加の有無ー



副問1 NPOに求めるサービス

副問1（問12の回答で「1 必要だと思う」と回答した方にお聞きします。）

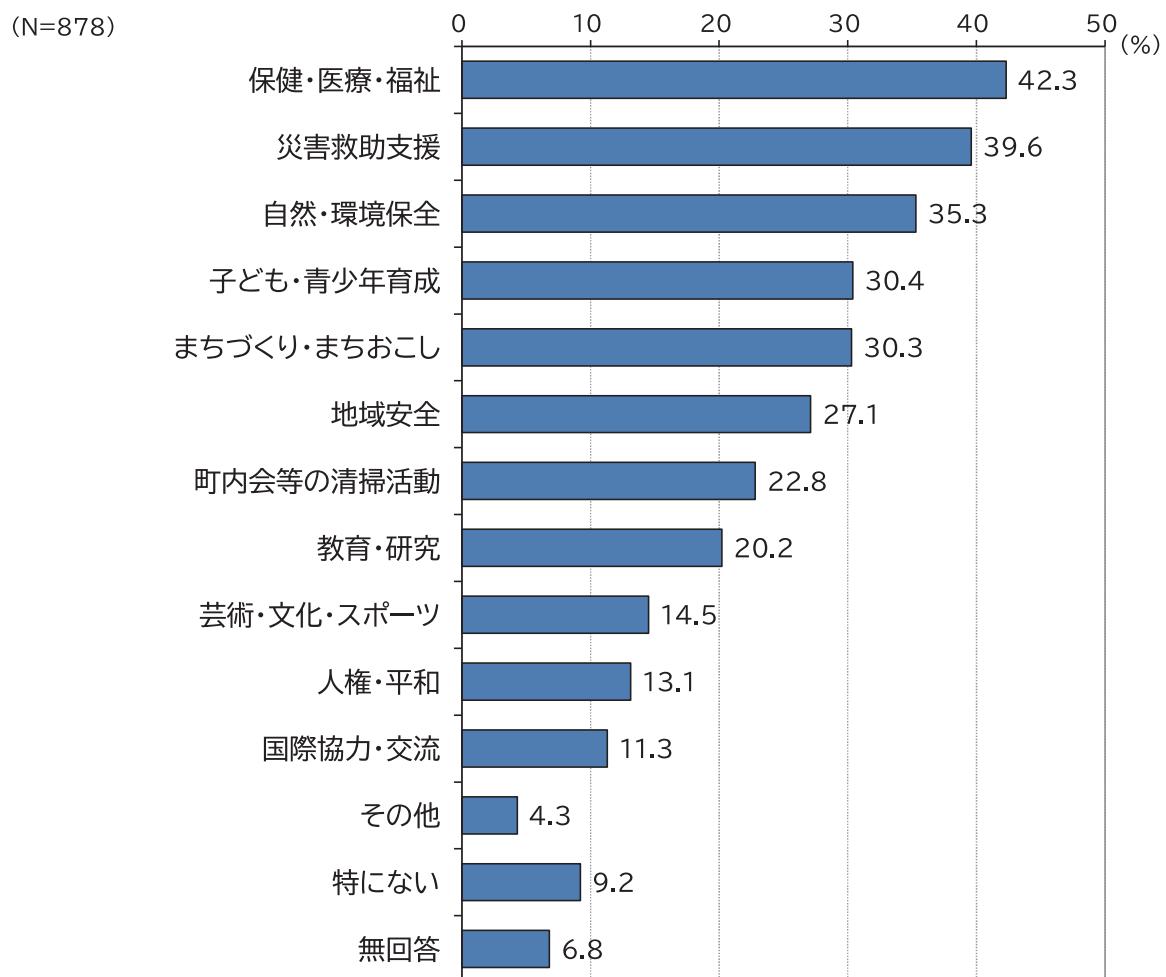
あなたが、NPO（NPO法人、市民活動団体、ボランティア団体）に求めるサービスはどんなことですか。（サービス提供を希望する分野を選択し、（ ）内にサービス内容を記載）（当てはまるものすべてに記載）

全体では、「保健・医療・福祉」(42.3%)が最も多く、次いで「災害救助支援」(39.6%)、「自然・環境保全」(35.3%)、「子ども・青少年育成」(30.4%)、「まちづくり・まちおこし」(30.3%)となっている。

また、「その他」の主だった意見は、「経済的に貧しい人々へのサポート」、「全ての項目に渡り情報が少ない」、「動物愛護活動」などとなっている。

また、サービス提供を希望する分野のサービス内容として、「保健・医療・福祉」では高齢者・障害者サービスや送迎等の移動支援、「災害救助支援」では災害時の地域における助け合いや救援・救護ネットワークづくり、「自然・環境保全」では河川の清掃・浄化やリサイクル運動、動物の保護、「子ども・青少年育成」ではいじめ相談や児童虐待防止、「まちづくり・まちおこし」では商店街の活性化や町並み、お祭などの地域伝統文化の保存といった意見が多くみられた。

図 NPOに求めるサービス



性別にみると、男性は「災害救助支援」(39.1%)、女性は「保健・医療・福祉」(45.4%)がそれぞれ最も多くなっている。

年代別にみると、50歳代以上は「保健・医療・福祉」、10歳代、20歳代は「災害救助支援」、「まちづくり・まちおこし」(同率)、30歳代は「自然・環境保全」(45.1%)、40歳代は「まちづくり・まちおこし」(38.3%)がそれぞれ最も多くなっている。

婚姻状況別にみると、未婚は「災害救助支援」(39.9%)、既婚、その他は「保健・医療・福祉」がそれぞれ最も多くなっている。

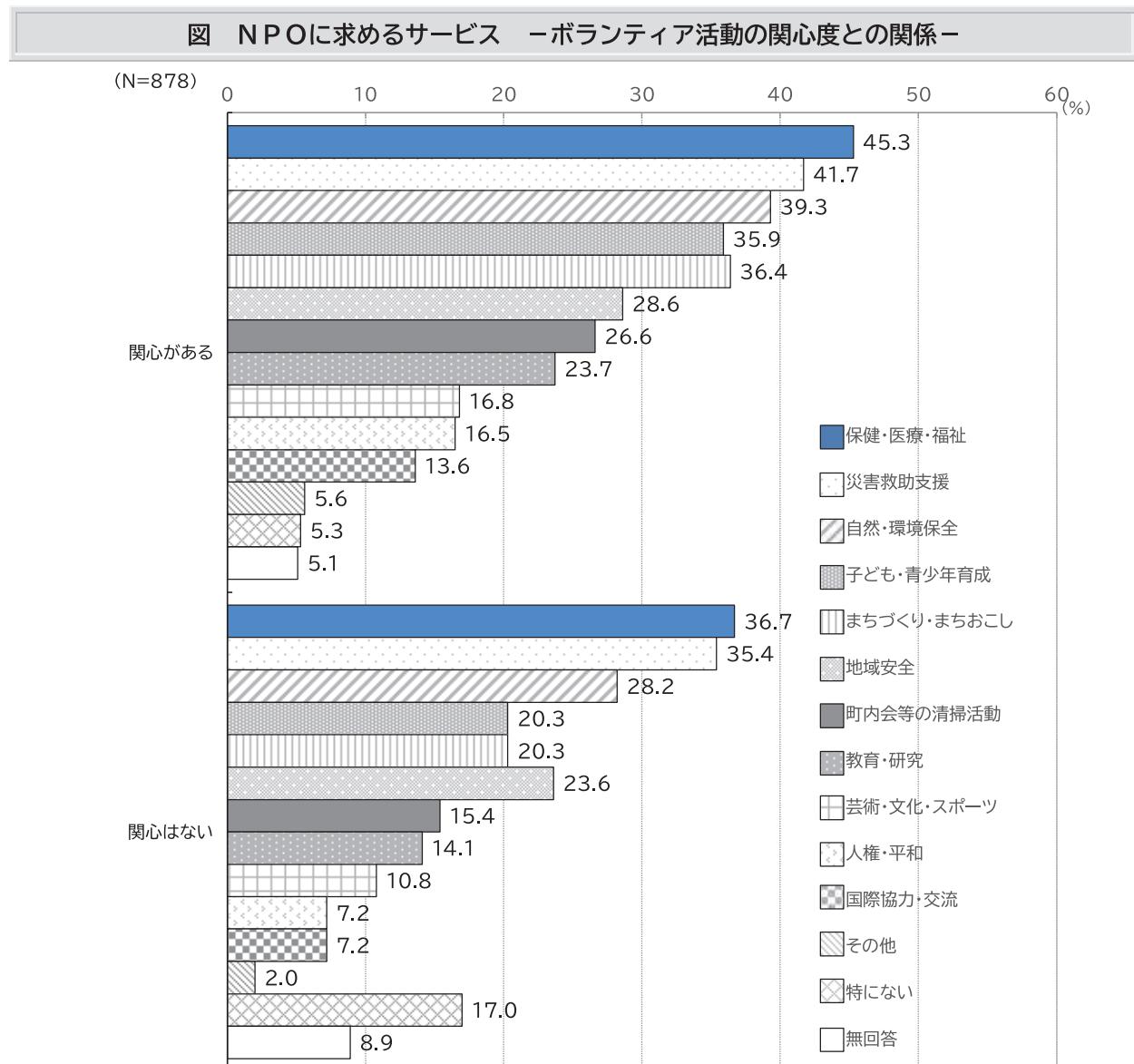
居住地別にみると、高知市、安芸広域圏、嶺北広域圏、仁淀川広域圏、幡多広域圏は「保健・医療・福祉」、南国・香美広域圏、高岡北広域圏は「災害救助支援」、高幡広域圏は「保健・医療・福祉」、「災害救助支援」(同率で44.3%)がそれぞれ最も多くなっている。

表 NPOに求めるサービス

【表の見方】		調査数(人)	(1) 保健 ・ 医療 ・ 福祉	(2) 災害 救 助 支 援	(3) 自然 ・ 環 境 保 全	(4) 子 ど も ・ 青 少 年 育 成	(5) ま ち づ く り ・ ま ち お こ し	(6) 地 域 安 全	(7) 町 内 会 等 の 清 掃 活 動	(8) 教 育 ・ 研 究	(9) 芸 術 ・ 文 化 ・ ス ポ ー ツ	(10) 人 権 ・ 平 和	(11) 国 際 協 力 ・ 交 流	(12) そ の 他	(13) 特 に な い	無回答
比率(%)	網掛け=		1位													
			2位													
全体	878	42.3	39.6	35.3	30.4	30.3	27.1	22.8	20.2	14.5	13.1	11.3	4.3	9.2	6.8	
性別	男性	345	37.4	39.1	30.4	25.2	29.3	28.4	25.8	17.4	16.2	11.9	9.3	4.9	12.5	7.0
	女性	529	45.4	39.7	38.4	33.6	31.0	25.9	20.8	21.9	13.2	13.8	12.3	4.0	7.0	6.8
	その他	2	100.0	100.0	50.0	50.0	-	100.0	50.0	-	-	50.0	100.0	-	-	-
年代	10歳代	13	23.1	38.5	30.8	23.1	38.5	23.1	15.4	23.1	7.7	15.4	23.1	-	7.7	-
	20歳代	52	32.7	46.2	25.0	30.8	46.2	23.1	13.5	28.8	19.2	15.4	13.5	3.8	11.5	-
	30歳代	71	38.0	39.4	45.1	38.0	39.4	28.2	25.4	38.0	19.7	15.5	18.3	4.2	12.7	4.2
	40歳代	115	37.4	35.7	33.9	32.2	38.3	32.2	17.4	27.8	17.4	11.3	12.2	7.0	12.2	2.6
	50歳代	154	53.9	44.2	40.3	37.7	28.6	31.2	24.0	18.8	17.5	14.9	14.9	2.6	7.1	5.8
	60歳代	222	44.1	43.2	31.5	27.5	24.3	26.1	21.6	17.6	12.2	11.7	7.7	3.6	9.0	8.6
	70歳以上	251	39.8	34.3	35.9	25.9	26.7	23.9	27.1	12.7	11.2	12.7	8.8	5.2	8.0	10.4
婚姻状況	未婚	183	37.7	39.9	30.1	28.4	31.1	25.1	14.8	21.3	13.7	12.6	12.6	4.9	12.0	6.6
	既婚	575	43.3	40.5	36.9	31.7	31.1	28.3	25.6	20.3	14.6	13.9	11.0	4.0	8.3	5.9
	その他	117	44.4	35.9	36.8	28.2	25.6	24.8	22.2	17.9	15.4	10.3	11.1	5.1	9.4	10.3
お住まいの場所	高知市	413	42.4	40.0	35.6	34.1	30.3	30.5	23.5	22.0	16.2	14.5	11.9	4.4	9.4	7.3
	安芸広域圏	41	41.5	24.4	22.0	22.0	17.1	12.2	14.6	7.3	2.4	-	7.3	2.4	19.5	12.2
	南国・香美広域圏	152	38.8	40.8	40.1	26.3	26.3	30.3	21.1	18.4	14.5	9.9	10.5	3.9	9.2	7.2
	嶺北広域圏	17	52.9	29.4	17.6	11.8	11.8	17.6	11.8	5.9	11.8	-	5.9	-	11.8	-
	仁淀川広域圏	63	50.8	42.9	34.9	28.6	36.5	31.7	22.2	20.6	14.3	15.9	11.1	9.5	4.8	1.6
	高岡北広域圏	22	31.8	40.9	27.3	27.3	27.3	18.2	18.2	9.1	13.6	13.6	9.1	4.5	27.3	4.5
	高幡広域圏	61	44.3	44.3	39.3	26.2	39.3	13.1	23.0	23.0	9.8	11.5	9.8	8.2	3.3	6.6
	幡多広域圏	106	42.5	40.6	35.8	32.1	36.8	24.5	28.3	23.6	16.0	18.9	14.2	0.9	6.6	6.6

(★問12副問1×問6のクロス分析)

ボランティア活動の関心度との関係をみると、関心がある、関心はないともに「保健・医療・福祉」が最も多く、次いで「災害救助支援」、「自然・環境保全」となっているが、ボランティア活動に関心があると回答した人の方がNPOに求めるサービスの割合が高いことが伺える。



4. 寄附について

問13 NPOへの寄附の有無（令和4年内）

あなたは、昨年一年間（令和4年1月～12月）にNPO（NPO法人、市民活動団体、ボランティア団体）に寄附をしたことがありますか。（当てはまるもの1つに○印）

全体では、「ある」（18.2%）、「ない」（77.4%）となっている。

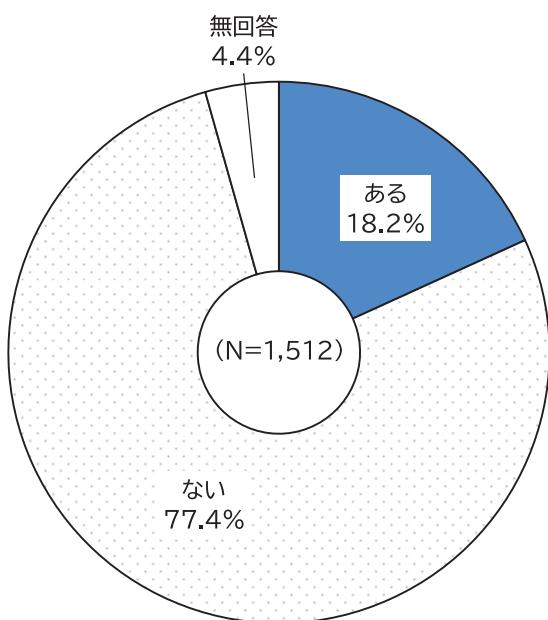
性別にみると、すべての性別で「ない」が7割以上となっており、「ある」は男性（15.5%）より女性（20.2%）の方が多くなっている。

年代別にみると、すべての年代で「ない」が7割以上となっており、「ある」は50歳代以上で2割程度と他の年代と比べて多くなっている。

婚姻状況別にみると、すべての婚姻状況で「ない」が7割以上となっており、「ある」は既婚（20.8%）で多くなっている。

居住地別にみると、すべての居住地で「ない」が7割以上となっており、「ある」は幡多広域圏（22.5%）で他の居住地と比べて多くなっている。

図表 NPOへの寄附の有無（令和4年内）

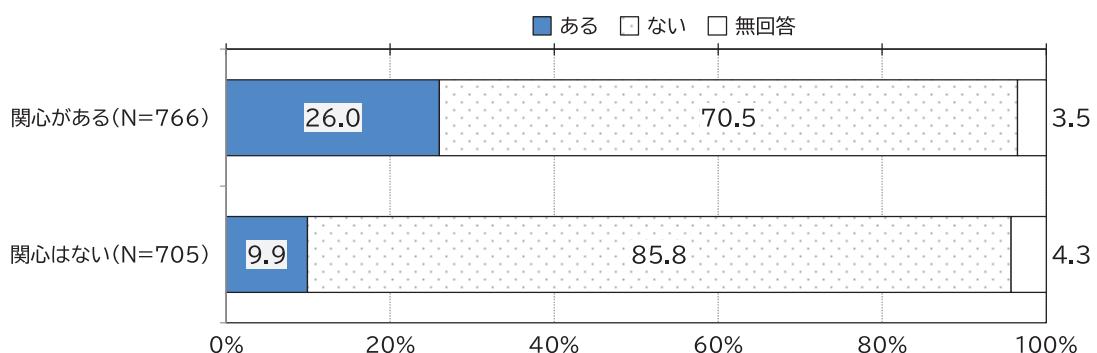


【表の見方】	調査数（人）	(1)			(2)	
		ある	ない	無回答	（1）	（2）
比率(%)	網掛け=	1位	2位			
全体	1,512	18.2	77.4	4.4		
性別						
男性	626	15.5	81.0	3.5		
女性	877	20.2	74.9	4.9		
その他	5	-	100.0	-		
年代						
10歳代	22	4.5	95.5	-		
20歳代	84	11.9	86.9	1.2		
30歳代	138	12.3	84.8	2.9		
40歳代	212	15.1	83.0	1.9		
50歳代	265	20.8	77.4	1.9		
60歳代	358	19.8	76.3	3.9		
70歳以上	431	20.4	70.8	8.8		
婚姻状況						
未婚	343	13.1	83.4	3.5		
既婚	949	20.8	75.2	4.0		
その他	210	15.2	78.1	6.7		
お住まいの場所						
高知市	715	16.6	79.3	4.1		
安芸広域圏	83	16.9	79.5	3.6		
南国・香美広域圏	245	20.8	75.5	3.7		
嶺北広域圏	25	12.0	80.0	8.0		
仁淀川広域圏	118	20.3	73.7	5.9		
高岡北広域圏	38	7.9	89.5	2.6		
高幡広域圏	106	18.9	73.6	7.5		
幡多広域圏	178	22.5	73.6	3.9		

(★問13×問6のクロス分析)

ボランティア活動の関心度との関係をみると、ボランティア活動に関心があると回答した方は「NPOに寄附をしたことがある」が26.0%となっており、一方で、ボランティア活動に関心がないと回答した方は「NPOに寄附をしたことがある」が9.9%となっており、ボランティア活動に関心がある人の方がNPOに寄附をしたことがある割合が高いことが伺える。

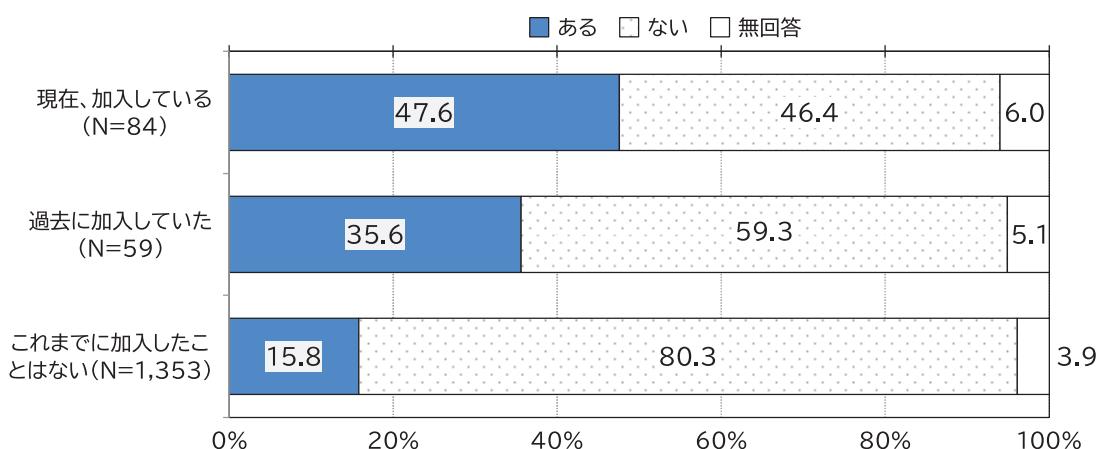
図 NPOへの寄附の有無（令和4年内）
－ボランティア活動の関心度との関係－



(★問13×問7のクロス分析)

NPO法人や市民活動団体、ボランティア団体への加入の有無との関係をみると、現在加入していると回答した方は「NPOに寄附をしたことがある」が47.6%、過去に加入していたと回答した方は「NPOに寄附をしたことがある」が35.6%、これまで加入したことないと回答した方は「NPOに寄附をしたことがある」が15.8%となっており、現在加入している人がNPOに寄附をしたことがある割合が高いことが伺える。

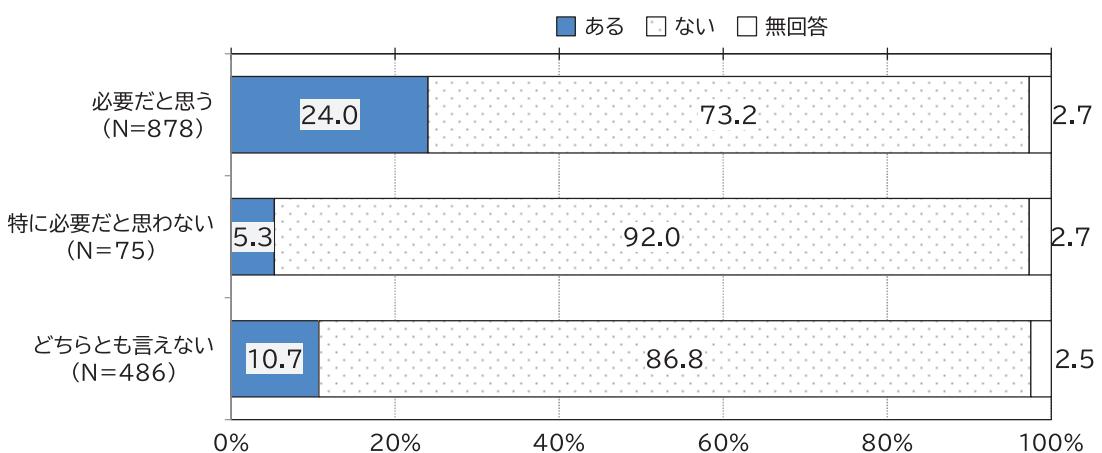
図 NPOへの寄附の有無（令和4年内）
－NPO法人や市民活動団体、ボランティア団体への加入の有無との関係－



(★問13×問12のクロス分析)

社会にとってNPOは必要だと思うかとの関係をみると、NPOは必要だと思うと回答した人は「NPOに寄附をしたことがある」が24.0%、NPOは特に必要だと思わないと回答した方は「NPOに寄附をしたことがある」が5.3%、どちらとも言えないと回答した方は「NPOに寄附をしたことがある」が10.7%となっており、NPOは必要だと思う人がNPOに寄附をしたことがある割合が高いことが伺える。

図 NPOへの寄附の有無（令和4年内）
－社会にとってNPOは必要だと思うかとの関係－



副問1 行った寄附の内容

副問1（問13の回答で「1 ある」と回答した方にお聞きします。）

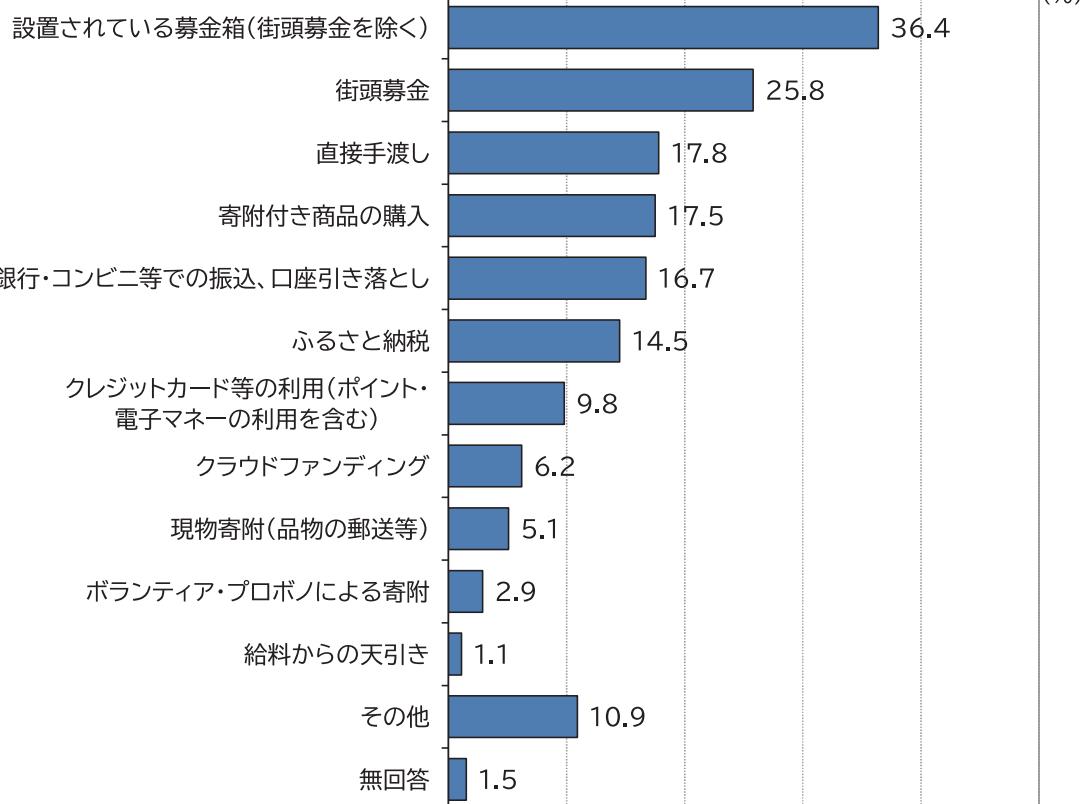
あなたが行った寄附はどのようなものですか。（当てはまるものすべてに○印）

全体では、「設置されている募金箱（街頭募金を除く）」（36.4%）が最も多く、次いで「街頭募金」（25.8%）、「直接手渡し」（17.8%）、「寄附付き商品の購入」（17.5%）、「銀行・コンビニ等での振込、口座引き落とし」（16.7%）、「ふるさと納税」（14.5%）となっている。

また、「その他」の主だった意見は、「赤い羽根募金」、「生協の災害募金」、「町内会（自治組織を通じて）」などとなっている。

図 行った寄附の内容

(N=275)



性別にみると、男性、女性ともに「設置されている募金箱（街頭募金を除く）」が最も多く、次いで「街頭募金」となっている。

年代別にみると、70歳以上を除くすべての年代で「設置されている募金箱（街頭募金を除く）」が最も多く、70歳以上は「街頭募金」（37.5%）が最も多くなっている。

婚姻状況別にみると、未婚、既婚は「設置されている募金箱（街頭募金を除く）」が最も多く、その他は「設置されている募金箱（街頭募金を除く）」、「銀行・コンビニ等での振込、口座引き落とし」（同率で31.3%）が最も多くなっている。

居住地別にみると、高知市、仁淀川広域圏、高幡広域圏、幡多広域圏は「設置されている募金箱（街頭募金を除く）」、安芸広域圏、南国・香美広域圏は「街頭募金」、嶺北広域圏は「直接手渡し」（66.7%）がそれぞれ最も多くなっている。

表 行った寄附の内容

	調査数（人）	(1) く設置 されてい る募金箱 （街頭募 金を除 く）	(2) 街頭募 金	(3) 直接手 渡し	(4) 寄附付 き商品の 購入	(5) 銀 行 と し 落 と し ・ コン ビ ニ 等 で の 振 込 、 口 座 引 き	(6) ふ る さ と 納 税	(7) ト ク レ ジ 子 マ チ ネ カ ー の 利 用 の 利 用 を 含 む （ ポ イ ン ト ）	(8) ク ラ ウ ド フ ァ ン デ イ ン グ	(9) 現 物 寄 附 （ 品 物 の 郵 送 等 ）	(10) ボ ラン ティ ア ・ ブ ロ ボ ノ に よ る 寄 附	(11) 給 料 か ら の 天 引 き	(12) そ の 他	無回答
【表の見方】														
比率(%)														
網掛け =		1位												
	2位													
全体	275	36.4	25.8	17.8	17.5	16.7	14.5	9.8	6.2	5.1	2.9	1.1	10.9	1.5
性別														
男性	97	33.0	29.9	14.4	14.4	13.4	13.4	11.3	6.2	3.1	2.1	1.0	13.4	1.0
女性	177	38.4	23.7	19.8	19.2	18.6	15.3	8.5	6.2	6.2	3.4	1.1	9.6	1.7
その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
年代														
10歳代	1	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
20歳代	10	70.0	-	-	-	-	20.0	20.0	-	-	-	-	-	-
30歳代	17	47.1	17.6	17.6	17.6	11.8	35.3	5.9	17.6	5.9	-	-	-	-
40歳代	32	40.6	18.8	15.6	18.8	12.5	25.0	21.9	9.4	-	-	-	6.3	-
50歳代	55	36.4	10.9	14.5	30.9	14.5	16.4	14.5	10.9	7.3	5.5	1.8	12.7	1.8
60歳代	71	32.4	31.0	15.5	15.5	22.5	19.7	9.9	4.2	5.6	5.6	2.8	9.9	1.4
70歳以上	88	31.8	37.5	25.0	12.5	14.8	1.1	4.5	2.3	5.7	1.1	-	15.9	2.3
婚姻状況														
未婚	45	46.7	8.9	4.4	13.3	13.3	22.2	4.4	8.9	-	-	-	6.7	-
既婚	197	35.0	29.4	21.8	19.3	15.2	14.7	11.2	5.6	6.1	4.1	1.5	12.2	1.5
その他	32	31.3	28.1	12.5	12.5	31.3	3.1	9.4	6.3	6.3	-	-	9.4	-
お住まいの場所														
高知市	119	33.6	23.5	12.6	16.0	21.0	15.1	12.6	6.7	1.7	4.2	2.5	8.4	1.7
安芸広域圏	14	21.4	42.9	28.6	7.1	-	7.1	-	7.1	7.1	-	-	14.3	7.1
南国・香美広域圏	51	33.3	35.3	29.4	15.7	17.6	19.6	11.8	3.9	7.8	2.0	-	9.8	-
嶺北広域圏	3	-	-	66.7	33.3	-	-	-	-	33.3	33.3	-	33.3	-
仁淀川広域圏	24	45.8	8.3	4.2	8.3	20.8	12.5	4.2	8.3	-	-	-	16.7	4.2
高岡北広域圏	3	33.3	33.3	33.3	-	33.3	-	-	-	-	-	-	-	-
高幡広域圏	20	40.0	35.0	30.0	25.0	10.0	10.0	5.0	-	10.0	-	-	25.0	-
幡多広域圏	40	50.0	22.5	12.5	30.0	10.0	15.0	10.0	7.5	10.0	2.5	-	7.5	-

副問2 寄附をしたNPOの活動分野

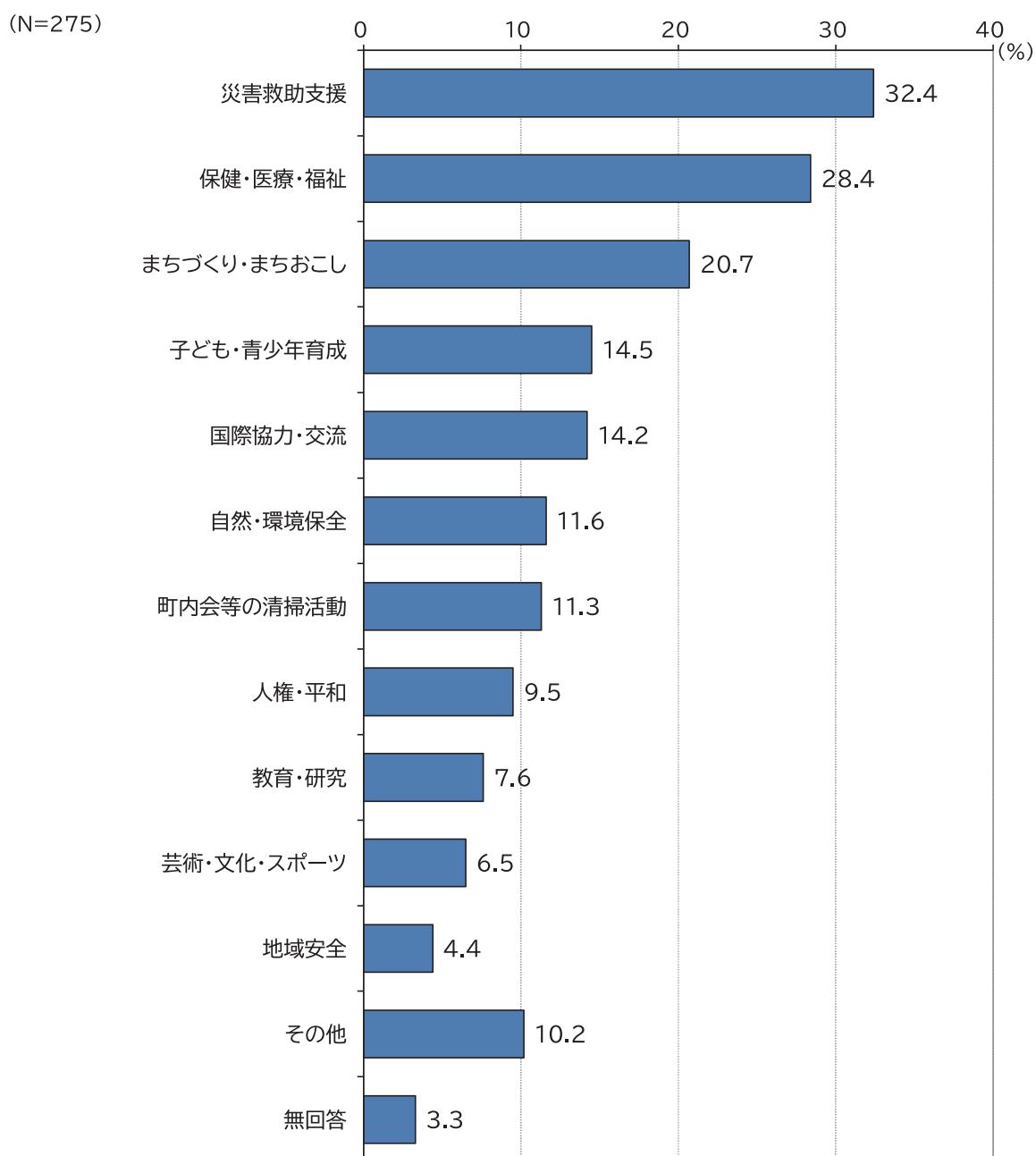
副問2（問13の回答で「1 ある」と回答した方にお聞きします。）

あなたが寄附をしたNPO（NPO法人、市民活動団体、ボランティア団体）は、どのような活動分野の団体ですか。（当てはまるものすべてに○印）

全体では、「災害救助支援」(32.4%) が最も多く、次いで「保健・医療・福祉」(28.4%)、「まちづくり・まちおこし」(20.7%)、「子ども・青少年育成」(14.5%)、「国際協力・交流」(14.2%) となっている。

また、「その他」の主だった意見は、「動物愛護、フード等の購入で寄附」、「赤い羽根募金」などとなっている。

図 寄附をしたNPOの活動分野



性別にみると、男性、女性ともに「災害救助支援」が最も多く、次いで「保健・医療・福祉」となっている。

年代別にみると、20歳代、70歳以上は「災害救助支援」、10歳代、40~60歳代は「保健・福祉・医療」、30歳代は「まちづくり・まちおこし」(47.1%)がそれぞれ最も多くなっている。

婚姻状況別にみると、未婚、その他は「災害救助支援」、既婚は「保健・福祉・医療」(32.5%)がそれぞれ最も多くなっている。

居住地別にみると、高知市、安芸広域圏、南国・香美広域圏、仁淀川広域圏、高幡広域圏は「災害救助支援」、嶺北広域圏、幡多広域圏は「保健・福祉・医療」、高吾北広域圏は「まちづくり・まちおこし」(66.7%)がそれぞれ最も多くなっている。

表 寄附をしたNPOの活動分野

【表の見方】		(1) 調査数 (人)	(2) 災害救助支援	(3) 保健・医療・福祉	(4) まちづくり・まちおこし	(5) 子ども・青少年育成	(6) 国際協力・交流	(7) 自然・環境保全	(8) 町内会等の清掃活動	(9) 人権・平和	(10) 教育・研究	(11) 芸術・文化・スポーツ	(12) 地域安全	その他	無回答
比率(%)	網掛け=														
		1位													
		2位													
全体		275	32.4	28.4	20.7	14.5	14.2	11.6	11.3	9.5	7.6	6.5	4.4	10.2	3.3
性別	男性	97	30.9	26.8	20.6	17.5	14.4	15.5	10.3	12.4	10.3	5.2	6.2	7.2	4.1
	女性	177	33.3	28.8	20.9	13.0	14.1	9.6	11.9	7.9	6.2	7.3	3.4	11.9	2.8
その他		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
年代	10歳代	1	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	20歳代	10	50.0	10.0	10.0	20.0	10.0	10.0	-	10.0	20.0	20.0	-	-	-
	30歳代	17	41.2	17.6	47.1	23.5	5.9	17.6	11.8	17.6	23.5	-	-	-	-
	40歳代	32	18.8	28.1	25.0	18.8	15.6	9.4	6.3	9.4	3.1	6.3	3.1	15.6	-
	50歳代	55	29.1	32.7	16.4	12.7	20.0	12.7	5.5	9.1	5.5	3.6	3.6	18.2	3.6
	60歳代	71	28.2	36.6	28.2	14.1	8.5	9.9	9.9	7.0	9.9	7.0	7.0	9.9	1.4
	70歳以上	88	38.6	22.7	12.5	11.4	17.0	12.5	19.3	10.2	4.5	8.0	4.5	6.8	6.8
婚姻状況	未婚	45	37.8	13.3	24.4	15.6	11.1	13.3	2.2	4.4	6.7	6.7	4.4	6.7	2.2
	既婚	197	30.5	32.5	22.3	14.7	15.2	10.7	12.2	11.2	8.6	5.1	4.6	10.7	4.1
	その他	32	34.4	21.9	3.1	12.5	12.5	15.6	15.6	6.3	3.1	15.6	3.1	12.5	-
お住まいの場所	高知市	119	31.9	20.2	21.8	18.5	17.6	10.1	10.1	9.2	6.7	6.7	4.2	10.9	1.7
	安芸広域圏	14	35.7	28.6	-	14.3	-	21.4	14.3	-	14.3	-	-	7.1	21.4
	南国・香美広域圏	51	43.1	41.2	23.5	11.8	9.8	11.8	23.5	15.7	7.8	13.7	9.8	2.0	-
	嶺北広域圏	3	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	仁淀川広域圏	24	25.0	16.7	12.5	8.3	20.8	16.7	-	12.5	4.2	-	4.2	16.7	8.3
	高吾北広域圏	3	33.3	33.3	66.7	-	33.3	33.3	-	-	33.3	-	33.3	33.3	-
	高幡広域圏	20	45.0	25.0	35.0	20.0	15.0	10.0	15.0	5.0	10.0	5.0	-	-	5.0
	幡多広域圏	40	20.0	40.0	17.5	10.0	10.0	10.0	5.0	7.5	7.5	5.0	-	17.5	2.5

副問3 NPOに寄附をした理由

副問3（問13の回答で「1 ある」と回答した方にお聞きします。）

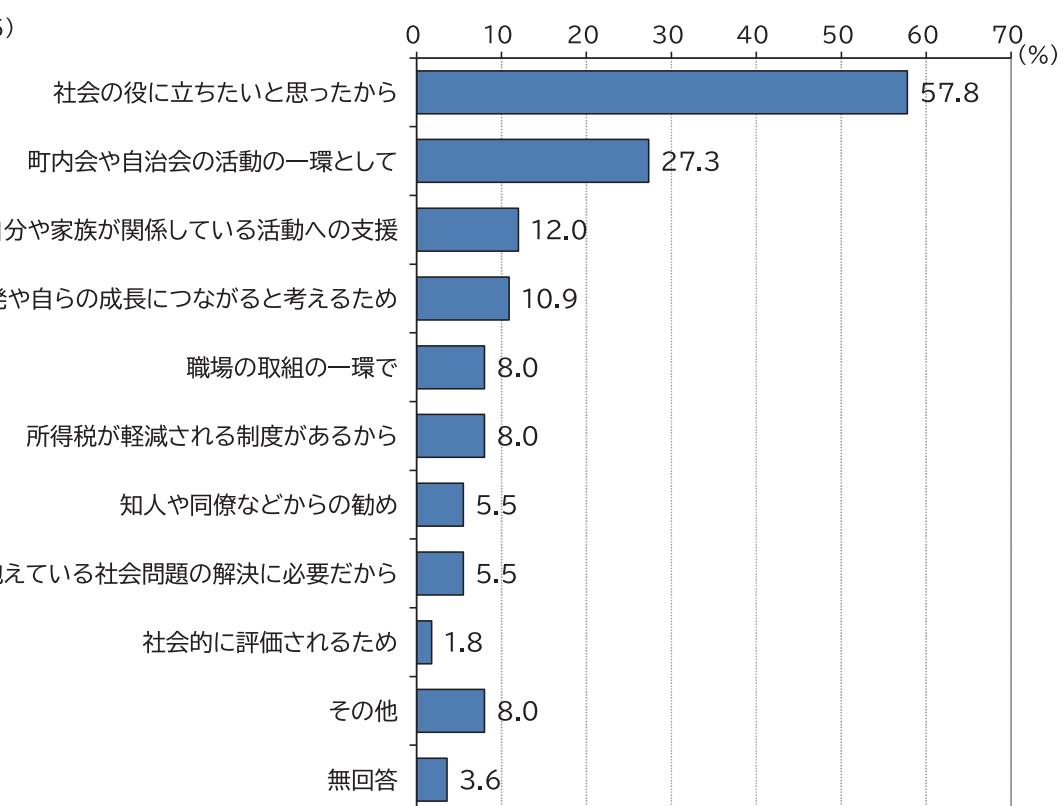
あなたがNPO（NPO法人、市民活動団体、ボランティア団体）に寄附をした理由は、何ですか。
(当てはまるものすべてに○印)

全体では、「社会の役に立ちたいと思ったから」(57.8%)が最も多く、次いで「町内会や自治会の活動の一環として」(27.3%)、「自分や家族が関係している活動への支援」(12.0%)、「自己啓発や自らの成長につながると考えるため」(10.9%)となっている。

また、「その他」の主だった意見は、「動物が好きだから」、「団体の活動内容に共感したから」、「お世話になったから」などとなっている。

図 NPOに寄附をした理由

(N=275)



性別にみると、男性、女性ともに「社会の役に立ちたいと思ったから」が最も多く、次いで「町内会や自治会の活動の一環として」なっている。

年代別にみると、10歳代を除くすべての年代で「社会の役に立ちたいと思ったから」が最も多く、10歳代は「社会の役に立ちたいと思ったから」、「自分や家族が関係している活動への支援」が同率で100.0%となっている。

婚姻状況別にみると、すべての婚姻状況で「社会の役に立ちたいと思ったから」が最も多くなっている。

居住地別にみると、高岡北広域圏を除くすべての居住地で「社会の役に立ちたいと思ったから」が最も多く、高岡北広域圏は「社会の役に立ちたいと思ったから」、「町内会や自治会の活動の一環として」が同率で66.7%となっている。

表 NPOに寄附をした理由

【表の見方】		(1) 調査数 (人)	(2) 社会の役に立ちたいと思ったから	(3) 町内会や自治会の活動の一環として	(4) 自分や家族が関係している活動への支援	(5) 自己啓発や自らの成長につながる考え方	(6) 職場の取組の一環で	(7) 所得税が軽減される制度があるから	(8) 知人や同僚などからの勧め	(9) 自分が抱えている社会問題の解決に必要なため	(10) 社会的に評価されるため	その他	無回答
比率(%) 網掛け=		1位											
2位													
全体		275	57.8	27.3	12.0	10.9	8.0	8.0	5.5	5.5	1.8	8.0	3.6
性別	男性	97	57.7	29.9	8.2	12.4	10.3	5.2	3.1	7.2	3.1	5.2	4.1
	女性	177	58.2	26.0	14.1	10.2	6.8	9.6	6.8	4.5	1.1	9.0	3.4
	その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
年 代	10歳代	1	100.0	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-
	20歳代	10	80.0	-	-	20.0	-	-	-	10.0	-	10.0	-
	30歳代	17	35.3	11.8	29.4	5.9	17.6	23.5	-	11.8	-	5.9	-
	40歳代	32	65.6	21.9	12.5	12.5	-	15.6	3.1	3.1	-	9.4	-
	50歳代	55	61.8	21.8	12.7	12.7	18.2	14.5	1.8	5.5	-	7.3	3.6
	60歳代	71	64.8	28.2	11.3	12.7	11.3	5.6	9.9	2.8	2.8	8.5	-
	70歳以上	88	47.7	38.6	9.1	8.0	1.1	-	6.8	6.8	2.3	8.0	9.1
婚姻 状況	未婚	45	66.7	6.7	8.9	8.9	6.7	13.3	2.2	6.7	2.2	11.1	2.2
	既婚	197	55.8	32.0	14.7	12.2	8.1	7.6	5.1	5.6	2.0	7.1	4.6
	その他	32	59.4	25.0	-	6.3	6.3	-	12.5	3.1	-	9.4	-
お 住 ま い の 場 所	高知市	119	58.8	19.3	5.9	15.1	7.6	10.9	6.7	6.7	1.7	10.1	1.7
	安芸広域圏	14	50.0	35.7	21.4	7.1	-	7.1	7.1	-	7.1	-	21.4
	南国・香美広域圏	51	45.1	43.1	21.6	5.9	9.8	7.8	3.9	7.8	-	7.8	-
	嶺北広域圏	3	66.7	33.3	33.3	33.3	-	-	-	-	-	-	-
	仁淀川広域圏	24	66.7	8.3	12.5	4.2	4.2	4.2	-	8.3	-	12.5	8.3
	高岡北広域圏	3	66.7	66.7	33.3	-	-	-	-	-	-	-	-
	高幡広域圏	20	55.0	35.0	10.0	20.0	10.0	-	5.0	5.0	10.0	5.0	10.0
	幡多広域圏	40	67.5	32.5	10.0	5.0	12.5	7.5	7.5	-	-	5.0	2.5

問14 NPOに寄附をしやすい金額（1回あたり）

あなたがNPO（NPO法人、市民活動団体、ボランティア団体）に寄附をしやすい金額は、1回あたり、いくらくらいまでですか。（当てはまるもの一つに○印）

全体では、「500円～1,000円未満」（42.9%）が最も多く、次いで「500円未満」（24.4%）、「1,000円～5,000円未満」（20.6%）となっている。

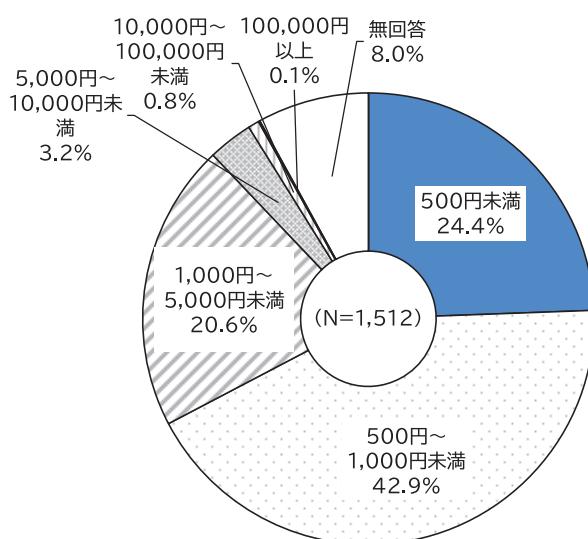
性別にみると、男性、女性ともに「500円～1,000円未満」、その他は「500円未満」、「500円～1,000円未満」（同率で40.0%）がそれぞれ最も多くなっている。

年代別にみると、10～20歳代「500円未満」、40歳代は「500円未満」、「500円～1,000円未満」（同率で37.3%）、30歳代、50歳代以上は「500円～1,000円未満」がそれぞれ最も多くなっている。

婚姻状況別にみると、すべての婚姻状況で「500円～1,000円未満」が最も多くなっている。

居住地別にみると、すべての居住地で「500円～1,000円未満」が最も多くなっている。

図表 NPOに寄附をしやすい金額（1回あたり）

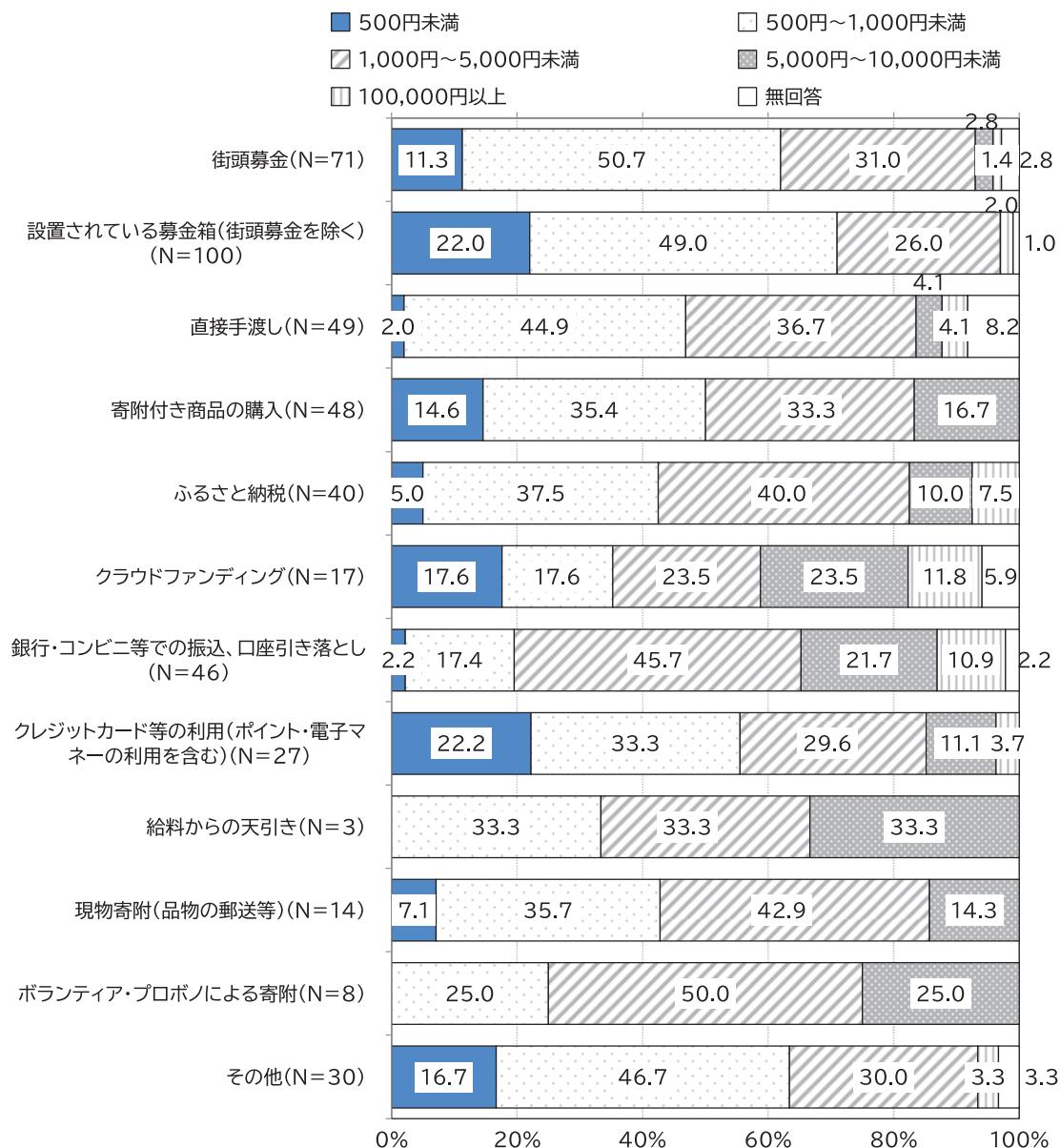


		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	無回答
【表の見方】		調査数 (人)	500 円未満	150,000 円未満	510,000 円未満	150,000 円未満	110,000 円未満	100,000 円以上
比率(%)	網掛け=							
	1位							
	2位							
全体		1,512	24.4	42.9	20.6	3.2	0.8	0.1
性別	男性	626	22.7	42.0	22.0	4.5	1.0	0.2
	女性	877	25.7	43.4	19.7	2.4	0.6	-
	その他	5	40.0	40.0	20.0	-	-	-
年代	10歳代	22	45.5	40.9	13.6	-	-	-
	20歳代	84	40.5	38.1	14.3	1.2	-	1.2
	30歳代	138	37.0	44.2	13.8	1.4	-	3.6
	40歳代	212	37.3	37.3	17.9	2.8	1.4	-
	50歳代	265	26.8	39.6	21.9	5.3	0.4	-
	60歳代	358	17.0	47.2	25.1	2.5	1.7	-
	70歳以上	431	14.6	44.8	21.3	3.7	0.5	-
婚姻状況	未婚	343	31.8	38.2	18.7	3.2	0.6	0.3
	既婚	949	21.2	45.3	22.1	3.4	0.7	-
	その他	210	26.2	40.5	17.6	2.9	1.4	-
お住まいの場所	高知市	715	25.5	41.1	20.7	3.5	1.3	0.1
	安芸広域圏	83	21.7	41.0	22.9	8.4	-	-
	南国・香美広域圏	245	19.6	50.6	20.4	1.6	1.2	-
	嶺北広域圏	25	20.0	44.0	24.0	4.0	-	-
	仁淀川広域圏	118	28.8	42.4	20.3	2.5	-	-
	高岡北広域圏	38	15.8	47.4	26.3	2.6	-	-
	高幡広域圏	106	22.6	45.3	17.9	2.8	-	-
	幡多広域圏	178	28.7	38.2	20.2	2.8	-	-

(★問14×問13副問1のクロス分析)

行った寄附の内容との関係をみると、街頭募金、設置されている募金箱、直接手渡し、寄附付き商品の購入、クレジットカード等の利用、その他は「500円～1,000円未満」、ふるさと納税、銀行・コンビニ等での振込、口座引き落とし、現物寄附、ボランティア・プロボノによる寄附は「1,000円～5,000円未満」がそれぞれ最も多くなっている。

図 NPOに寄附をしやすい金額（1回あたり）－行った寄附の内容との関係－



問15 寄附をするにあたり妨げとなること

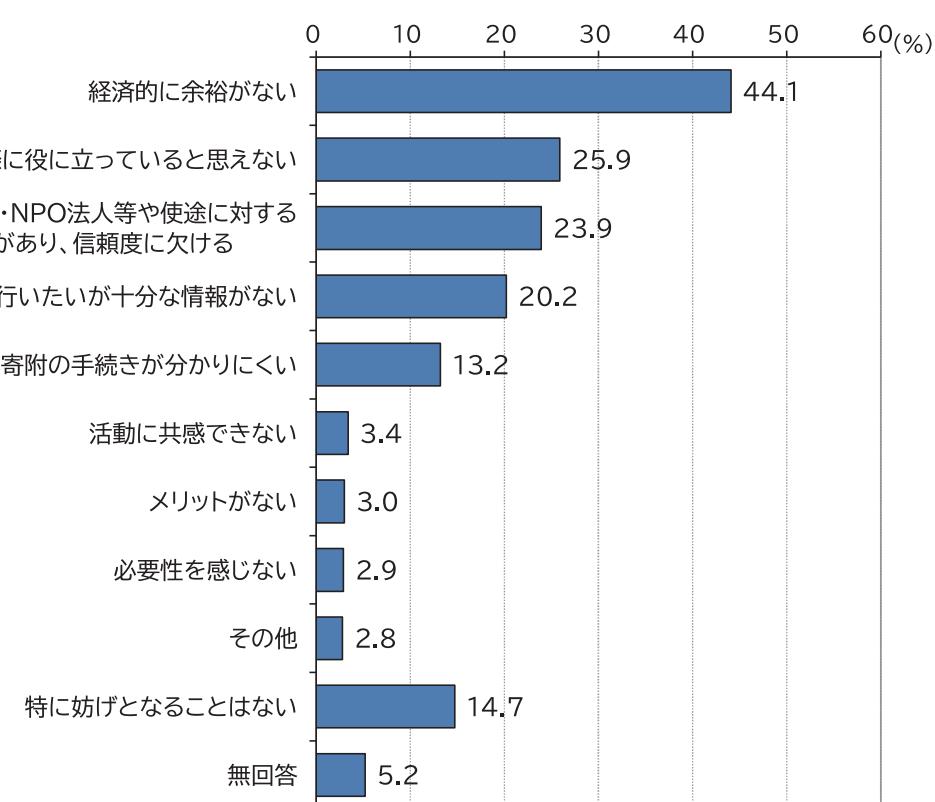
あなたが寄附をするにあたって、何か妨げとなることはありますか。(当てはまるものすべてに○印)

全体では、「経済的に余裕がない」(44.1%) が最も多く、次いで「寄附をしても実際に役に立っていると思えない」(25.9%)、「寄附先の団体・NPO法人等や使途に対する不信感があり、信頼度に欠ける」(23.9%)、「寄附を行いたいが十分な情報がない」(20.2%) となっている。

また、「その他」の主だった意見は、「寄附したお金の使途目的が明瞭ではなく収支報告がないため」、「NPOのことよく理解していないためお金の流れがわからないから」、「手続きがめんどくさいこと、簡単なことが大切」などとなっている。

図 寄附をするにあたり妨げとなること

(N=1,512)



性別にみると、すべての性別で「経済的に余裕がない」が最も多く、特にその他は80.0%と多くなっている。

年代別にみると、すべての年代で「経済的に余裕がない」が最も多く、特に30歳代以下は5割以上と多くなっている。

婚姻状況別にみると、すべての婚姻状況で「経済的に余裕がない」が最も多く、特に未婚は51.3%と多くなっている。

居住地別にみると、すべての居住地で「経済的に余裕がない」が最も多く、特に仁淀川広域圏は49.2%と多くなっている。

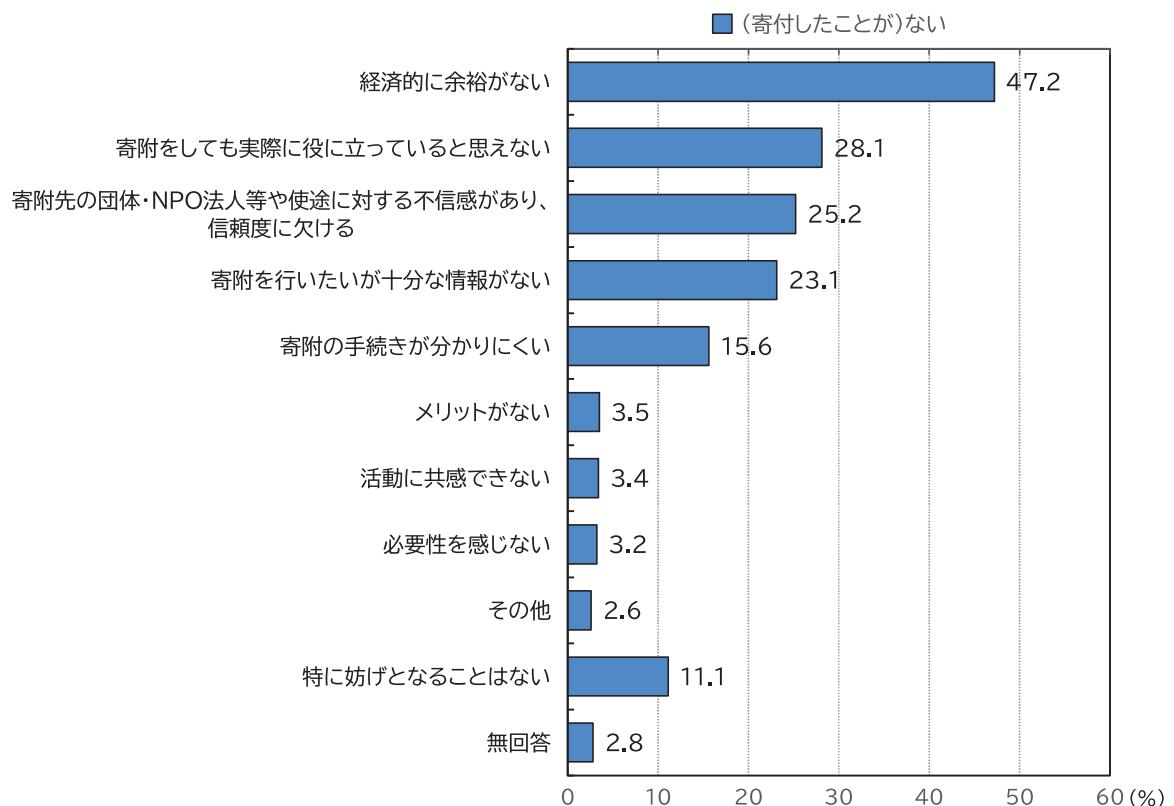
表 寄附をするにあたり妨げとなること

	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	無回答
【表の見方】	調査数（人）	経済的に余裕がない	え寄附をしても実際に役に立つていてと思	する不信の感がありNPO信頼法人等やける途に對	寄附を行いたいが十分な情報がない	寄附の手続きが分かりにくい	活動に共感できない	メリットがない	必要性を感じない	その他	特に妨げとなることはない
比率(%)											
網掛け=											
	1位										
	2位										
全体	1,512	44.1	25.9	23.9	20.2	13.2	3.4	3.0	2.9	2.8	14.7
性別											
男性	626	43.8	28.8	27.3	23.2	14.4	4.0	4.8	3.5	2.6	14.4
女性	877	44.4	23.7	21.4	18.1	12.4	3.0	1.6	2.4	3.0	14.8
その他	5	80.0	40.0	40.0	20.0	20.0	40.0	20.0	-	-	-
年代											
10歳代	22	59.1	31.8	9.1	31.8	9.1	-	9.1	-	4.5	4.5
20歳代	84	56.0	25.0	22.6	27.4	17.9	4.8	8.3	6.0	-	10.7
30歳代	138	52.9	31.2	24.6	21.7	13.8	3.6	8.0	4.3	3.6	10.9
40歳代	212	45.8	35.4	34.0	20.8	15.1	6.6	4.7	4.7	1.9	10.8
50歳代	265	41.9	26.8	27.5	24.9	17.4	3.4	2.3	2.3	1.5	11.7
60歳代	358	36.6	23.7	26.0	21.8	14.0	2.0	2.5	1.7	3.9	18.2
70歳以上	431	45.2	20.6	15.8	13.2	8.4	3.0	0.2	2.6	3.2	18.1
婚姻状況											
未婚	343	51.3	25.1	23.3	22.2	17.8	4.1	6.4	3.8	1.5	9.6
既婚	949	40.5	27.3	25.1	20.7	12.5	3.6	2.2	3.0	3.4	16.1
その他	210	48.1	21.4	19.5	15.2	9.5	1.9	1.4	1.4	2.4	16.7
お住まいの場所											
高知市	715	45.2	26.9	25.9	20.6	14.5	3.8	3.5	3.2	3.2	13.1
安芸広域圏	83	41.0	22.9	25.3	21.7	10.8	4.8	2.4	3.6	1.2	19.3
南国・香美広域圏	245	40.8	27.8	22.9	24.9	10.6	2.9	3.3	3.3	3.3	13.9
嶺北広域圏	25	48.0	32.0	24.0	16.0	4.0	-	-	-	-	20.0
仁淀川広域圏	118	49.2	22.9	22.0	14.4	15.3	2.5	2.5	1.7	2.5	16.9
高岡北広域圏	38	36.8	31.6	23.7	18.4	26.3	2.6	7.9	2.6	-	7.9
高幡広域圏	106	42.5	23.6	25.5	18.9	6.6	1.9	-	0.9	3.8	16.0
幡多広域圏	178	44.9	22.5	18.0	16.9	13.5	4.5	2.8	3.4	1.7	18.5

(★問15×問13のクロス分析)

(令和4年内に)NPO寄附をしたことがないと回答した方との関係をみると、「経済的に余裕がない」(47.2%)が最も多く、次いで「寄附をして実際に役に立っていると思えない」(28.1%)、「寄附先の団体・NPO法人等や使途に対する不信感があり、信頼度に欠ける」(25.2%)となっている。

図 寄附をするにあたり妨げとなること
— (令和4年内に) NPOへしたことがないと回答した方との関係 —



参考（5）

NPO法人をはじめとする各主体を対象としたアンケート

※当該アンケートは、統計的に処理した結果のみ公表することを前提として実施したものであり、自由記述欄の回答については抜粋して掲載しております。>

■NPO及び市民活動に関するアンケート（集計表）

調査期間	令和5年8月4日～令和5年9月26日		
	調査対象数	NPO法人 330法人	回答数 123 法人
			回答率 37.3%

(問1) 貴団体が活動を開始した時期についてご記入下さい。

任意団体としての活動開始時期 (年 月)
法人格取得時期 (年 月) } = 合計平均 (17.4) 年

(問2) 活動開始当初からみて現在の活動資金の規模は拡大していますか。

拡大した 78 変化していない 18 縮小した 27



(問3) 現在、活動資金の量は十分ですか。

十分 24 一部不十分 46 不十分 51 未回答 2

(問4) 現在、行政からの補助事業や委託事業（指定管理事業を含む。）を受けていますか。

受けている 81 受けていない 32 過去に受けたことがある 10

(問5) 現在、民間団体等からの助成金を受けていますか。

受けている 36

受けていない 70

⇒ (副問1) その理由は何ですか。

過去に受けたことがある 16

- 1 助成金を受ける必要がない
- 2 助成金の情報がない
- 3 申請に係る事務作業が煩雑
- 4 受けたい分野の助成金がない
- 5 その他

19
13
17
20
13
未回答 1

(問6) 貴団体の収入のうち、最も多くの割合を占めているものはどれですか。

1 会費	20	2 寄附金	10
3 行政からの補助金	16	4 行政からの業務委託（指定管理を含む）	46
5 企業・民間団体からの業務委託	1	6 企業・民間団体からの助成金	4
7 事業収益	21	8 収入はない	3
9 その他	3		

(問7) これまでに、活動資金を確保するためにどのような手立てを講じましたか。

- 1 寄附金集めに力を入れた
- 2 補助金・助成金・委託料（指定管理事業を含む。）申請に力を入れた
- 3 独自事業収入の拡大に力を入れた
- 4 会員拡大による会費収入の拡大に力を入れた
- 5 その他
- 6 講じてこなかった

13
57
32
12
1
12



(副問1) 問7で1～5を回答した方は、資金集めの努力に効果はありましたか。

- | | | |
|-----------------------------------|--------|----|
| 1 寄附金集めに力を入れた | ⇒ 効果あり | 11 |
| 2 補助金・助成金・委託料（指定管理事業を含む。）申請に力を入れた | ⇒ 効果あり | 49 |
| 3 独自事業収入の拡大に力を入れた | ⇒ 効果あり | 24 |
| 4 会員拡大による会費収入の拡大に力を入れた | ⇒ 効果あり | 7 |
| 5 その他 | ⇒ 効果あり | 1 |

• 効果なし	2
• 効果なし	8
• 効果なし	8
• 効果なし	5
• 効果なし	0

未回答 1
未回答 2
未回答 1

(副問2) 副問1で効果があった理由、又は効果がなかったとした理由を教えてください（自由記述）。

[別紙1]

(問 8) 今年度から、高知県へのふるさと納税を活用した、N P O 法人を含む地域団体等の活動支援する補助制度・「高知県地域活性化支援事業費補助金」が創設されましたが、活用してみたいと思いますか。

- 1 使いたい
- 2 興味はあるがどうするか分からない
- 3 制度の内容が分からないので判断できない
- 4 利用するつもりはない

27
31
40
25

未回答 2

(問 9) 現在、貴団体が目標としている水準（レベル）で活動を実施するための人数は十分ですか。

(1) 活動又は事業を企画・リードする中心メンバーの数	十分	40	不十分	82	未回答 1
(2) 活動又は事業を実施する際に動いてくれる人の数	十分	31	不十分	89	未回答 3
(3) 組織を管理・運営するための事務局体制(事務局員数)	十分	39	不十分	81	未回答 3
(4) 活動や事業を支援してくれる専門家の数	十分	33	不十分	86	未回答 4
(5) 協働できる他の N P O や市民活動団体の数	十分	40	不十分	74	未回答 8



(問 10) 貴団体の令和 5 年 4 月 1 日時点の会員数は何人ですか。また、そのうち法人会員数はいくつですか。

会員 人 うち法人会員 法人

(副問 1) 平成31年 4 月 1 日時点と比べ、正会員数は増えていますか。

増えた	28	減った	55	変わらない	38	未回答 2
-----	----	-----	----	-------	----	-------

別紙2

(問 11) 個人会員（正会員）の中で、主に活動している年代はどれですか。

1 10歳代	2	2 20歳代	0
3 30歳代	2	4 40歳代	18
5 50歳代	29	6 60歳代	38
7 70歳以上	32		未回答 6

(問 12) 活動又は事業に主体的・積極的に参画してくれる人の数は、活動開始当初と比べて増えましたか。

増えた	32	減った	40	あまり変化ない	50	未回答 1
-----	----	-----	----	---------	----	-------



(問 13) 貴団体の平均的な活動の頻度はどのくらいですか。

1 週 5 日以上	62	2 週 2 ~ 5 日未満	23
3 週 1 日程度	4	4 月 2 ~ 3 日程度	11
5 月 1 日程度	7	6 年に数回もしくは定期的には行っていない	13
7 活動していない	1	8 その他	1

未回答 1

(副問 1) 「7 活動していない」と回答した方は、その理由は何ですか。

1 活動資金の不足	6	2 活動を担う人材の不足	7
3 活動を担う主要メンバーの脱退	0	4 活動を担う主要メンバーの高齢化	6
5 団体の目的が不明瞭になったため	0	6 団体の目的を達成したため	0
7 法人設立後、間もないため	1	8 その他	1

(問 14) 徐々に社会経済活動もコロナ禍前に戻りつつありますが、コロナ禍前（H31・R1(2019)年度）と比較して、貴団体の現在の現在の活動状況はどうですか。

1 活動は拡大している	24
2 以前と変わらない	49
3 縮小したまま推移している	28
4 縮小しているが今後改善見込み	18
5 活動休止中	3

未回答 1

(問 15) 現在、活動を連携して実施、又は支援してくれる事業者はいますか。

いる	57	いない	64
----	----	-----	----

(問 1 6) 黄団体のミッション(活動目的)や活動内容は、広く社会や地域の人々に理解されていると思いますか。

1 十分理解されている	5
2 ある程度理解されている	74
3 あまり理解されていない	28
4 理解が不十分である	15

未回答 1

(問 1 7) 黄団体の情報発信の主な方法は何ですか。

1 ホームページ	70
3 チラシ配布	52
5 新聞広告	7
7 近隣や知人への声かけ	45

2 SNS (LINE、YouTube、Twitter、Instagramなど)	50
4 ポスター等の掲示	26
6 テレビ放送・CM、ラジオ	8
8 その他	23

未回答 4

(問 1 8) 黄団体の活動や運営に関する相談先はどこですか。

1 市町村	53
3 行政書士、税理士等の専門家	27
5 他のNPO法人や任意団体	25
7 相談先はない	19

2 中間支援組織	62
4 金融機関	6
6 大学などの教員	11
8 その他	14

未回答 1

(問 1 9) 高知県における社会貢献活動拠点センターである「高知県ボランティア・NPOセンター」

(以下「センター」という。) が行う支援やサービスを利用したことがありますか。

1 定期的に利用している	8
2 必要なつど利用している	80
3 あまり利用していない	14
4 利用していない	21

(副問 1) (副問 1)に回答してください。

(副問 2) (副問 2)に回答してください。

(副問 1) 間19で「1 定期的に利用している」「2 必要なつど利用している」を選択した方は、具体的にどのような支援やサービスを利用していますか。(複数選択可)

1 法人設立相談	14	2 運営に関する相談	45
3 イベント情報の収集	25	4 専門家派遣	8
5 ピッピネット(ホームページ)による情報収集、情報発信	49		
6 助成金情報の提供	46	7 会議室の貸し出し	10
8 資源循環システム(企業等からの物品提供)	28	10 広報紙「てをつなG o」による情報収集・情報発信	12
9 ボランティア保険の斡旋	5		
11 NPOフォーラム開催等、交流の場づくり	12		
12 その他	8		

(副問 2) 間19で「3 あまり利用していない」「4 利用していない」を選択した方は、それはどうしてですか。(複数選択可)

1 利用したい支援やサービスがない	8	2 どんなサービスを提供しているかわからない	13
3 センターの存在を知らない	2	4 他の団体や機関から支援を受けている	1

- ・高知市市民活動サポートセンター
- ・NPO法人高知県西部NPO支援ネットワーク
- ・その他

1
0
0

5 現在の活動を続けていくうえで必要性がない	12
6 その他	3

[別紙 1]

(副問 3) センターが現在提供している支援やサービス以外に、どのような支援をセンターに期待しますか。(自由記述)

[別紙 1]

(問 2 0) 情報収集や情報発信ができる、うちボランティアNPO情報システム「ピッピネット」を知っていますか。

知っている	105	知らない	18
-------	-----	------	----

(副問 1) 「知っている」と回答した方は、「ピッピネット」を使ったことがありますか。

1 よく使っている	12	2 たまに使っている	37
3 過去に使ったことがある	22	4 一度も使ったことがない	34

(問 2 1) 黄団体は、活動を開始してから現在までに、行政と関わって事業やプロジェクトなどを企画・実施したことがありますか。

ある	88	ない	35
----	----	----	----

(副問 1) 「ある」と回答した方は、その内容はどのようなものでしたか。(複数回答可)

1 行政が企画した事業の実施を手伝った	39
2 補助事業又は委託事業に採択された事業を実施した	66
3 指定管理者の指定を受けた	24
4 独自事業に対して行政から後援又は協賛を得た	28
5 普段から行政と協働して実施出来る事業を生み出す意見交換を行っている	27
6 普段から行政と意見交換する中で生まれた協働事業を実施した	17
7 その他	5

(問22) 地域の課題解決のため、他の団体（行政は除く。）と協働しましたか。

した 58 していない 65

(副問1) 「ある」と回答した方は、どのような団体と協働しましたか。（複数回答可）

1 NPO法人	24	2 民間企業	21
3 市民活動団体・ボランティア団体	25		
4 地域団体（町内会・自治会など）	22		
5 その他	17		
	別紙1]

(問23) 「ある」と回答した方は、どのような課題に取り組みましたか。（複数回答可）

1 保健、医療又は福祉の増進	21	11 國際協力	2
2 社会教育の推進	9	12 男女共同参画社会の形成の促進	5
3 まちづくりの推進	25	13 子どもの健全育成	16
4 観光の振興	13	14 情報化社会の発展	2
5 中山間地域の振興	9	15 科学技術の振興	0
6 学術、文化、芸術又はスポーツの振興	13	16 経済活動の活性化	9
7 環境の保全	7	17 職業能力の開発又は雇用機会の拡充	4
8 災害救援	8	18 消費者の保護	2
9 地域安全活動	7	19 他の団体の連絡、助言、又は援助	6
10 人権の擁護又は平和の推進	6	20 その他	1

(問24) 災害時における対応について、自ら取り組む、又は他の団体と連携して取り組む体制はできていますか。

はい 51 いいえ 70 未回答 2

(問25) 現在の代表の方の後継者はいますか。

いる 55 いない 67 未回答 1

(問26) 貴団体が活動・運営していくうえで、課題として考えることは何ですか。

1 活動資金の不足	40	2 会員等の人材不足	21
3 団体の高齢化	27	4 後継者の育成	25
5 活動の認知	14	6 助成金等の情報不足	2
7 活動時間の確保	4	8 活動場所の確保	7
9 専門的知識の不足	5	10 周囲の理解が十分でない	3
11 他団体との連携・ネットワークづくり	7	12 課題はない	3
13 その他	別紙1]

(問27) 将来、貴団体は認定NPO又は特例認定NPOになりたいですか。

1 すでにになっている	8	2 申請準備中・検討中	9
3 制度自体を知らない	17	4 制度は知っているものの関心がない	35
5 認定要件が厳しいため諦めている	26	6 その他	7
	別紙1]

(問28) 令和5年3月から、NPO法に基づく申請や届出等の手続がオンラインでできる「ウェブ報告システム」が稼働していますが、利用したいと思いますか。

1 使っている	7	2 今はまだ使っていないが、いずれ使いたい	83
3 使う予定はない	11	4 分からない	20
	別紙1]

(副問1) 「3. 使う予定はない」又は「4. 分からない」と回答した方は、そう回答した理由を教えてください。（自由記述）

[別紙1]

(問7)(副問2)

副問1で効果あった理由、又は効果がなかったとした理由を教えてください。(自由記述)

(効果あり)

- ・クラウドファンディングを通じた寄附が集まった
- ・専門とする業務を受託することによりほかの関連業務の委託をいただけるようになった
- ・委託による事業を受けることで会員の活動の場を提供することができた
- ・高齢者就業支援団体の認定を受け、受注業務が増えた
- ・会及び会員のスキルをアピールし、そのスキルを活かした事業の企画提案を行った

(効果なし)

- ・会員の高齢化により、退会者と入会者の割合が同じくらいで、会員数増加には至らない現状
- ・いくつか応募もしたが、採用されない事例の方が多かった。応募に時間がかかりすぎる。
- ・企業等に電話や郵便や訪問活動をしてきたが、断られることが多かった。
- ・実績があつたため行政向けに事業を提案したが、予算がないと委託に結びつかなかった。
- ・独自事業を継続するための資金の確保が難しく、収入につながるまで継続ができない。

(問19)(副問2)

「3 あまり利用していない」「4 利用していない」を選択した方は、それはどうしてですか。(複数回答可)

6 その他

- ・新しい人員で組織の活性化、一刷を図る
- ・NPOセンターが考えている団体(組織)と当会では生い立ちが違う

(問19)(副問3)

センターが現在提供している支援やサービス以外に、どのような支援をセンターに期待しますか。(自由記述)

- ・デジタル機器のサポート
- ・NPO法人への寄附等の援助がどのようなメリットがあるかを広報していただきたい
- ・県外上場企業からの寄付金や、支援金の橋渡し
- ・今後就労や地域とのかかわりを大切にしたいと考えているので、そのノウハウ・サポートを教えていただきたい
- ・ボランティア、プロボノのオンラインでのプラットフォーム
- ・活動が似ているNPO同士を引き合わせての交流や勉強会
- ・高知市以外の地域での支援拡充。神戸市のように公務員等が地域貢献活動に参画しやすい企業体づくりとなるよう働きかけてもらいたい。

表1 活動開始当初からの活動資金規模の変化

資金規模の変化	H24年度調査		H29年度調査		R5年度調査	
	団体数	構成比%	団体数	構成比%	団体数	構成比%
拡充した	47	43.5%	72	50.3%	78	63.4%
変化していない	44	40.7%	42	29.4%	18	14.6%
縮小した	17	15.7%	29	20.3%	27	22.0%
合 計	108	100.0%	143	100.0%	123	100.0%

表2 力を入れた資金調達活動の内容

活動内容	H24年度調査		H29年度調査		R5年度調査	
	団体数	構成比%	団体数	構成比%	団体数	構成比%
寄付金集め	5	6.8%	7	7.0%	13	11.3%
補助金・助成金・委託金申請	35	47.9%	45	45.0%	57	49.6%
独自事業収入の拡大	15	20.5%	29	29.0%	32	27.8%
会員拡大による会費収入の拡大	13	17.8%	17	17.0%	12	10.4%
その他	5	6.8%	2	2.0%	1	0.9%
合 計	73	100.0%	100	100.0%	115	100.0%

表3 目標とする活動水準を実施するための人材等確保の現状

人材等の種類	H24年度調査			H29年度調査			R5年度調査			
	十分	不十分	合計	十分	不十分	合計	十分	不十分	合計	
活動又は事業を企画・リードする中心メンバーの数	団体数	26	81	107	39	102	141	40	82	122
	構成比%	24.3%	75.7%	100.0%	27.7%	72.3%	100.0%	32.8%	67.2%	100.0%
中心メンバーが企画した活動又は事業を実施する際に動いてくれる人の数	団体数	31	74	105	43	99	142	31	89	120
	構成比%	29.5%	70.5%	100.0%	30.3%	69.7%	100.0%	25.8%	74.2%	100.0%
組織を管理・運営するための事務局体制(事務局員数)	団体数	28	77	105	43	98	141	39	81	120
	構成比%	26.7%	73.3%	100.0%	30.5%	69.5%	100.0%	32.5%	67.5%	100.0%
活動や事業を支援してくれる専門家の数	団体数	35	68	103	47	91	138	33	86	119
	構成比%	34.0%	66.0%	100.0%	34.1%	65.9%	100.0%	27.7%	72.3%	100.0%
協働できる他のNPOや市民活動団体の数	団体数	25	75	100	50	88	138	40	74	114
	構成比%	25.0%	75.0%	100.0%	36.2%	63.8%	100.0%	35.1%	64.9%	100.0%

表4 平成31年4月1日からの正会員数の変化

正会員数の変化	R2年度調査		R4年度調査		R5年度調査	
	団体数	構成比%	団体数	構成比%	団体数	構成比%
増えた	26	22.0%	27	19.0%	28	23.1%
減った	31	26.3%	50	35.2%	55	45.5%
変わらない	61	51.7%	65	45.8%	38	31.4%
合 計	118	100.0%	142	100.0%	121	100.0%

表5 活動開始当初からの活動又は事業に積極的に参画してくれる人数の変化

実動人員の変化	H24年度調査		H29年度調査		R5年度調査	
	団体数	構成比%	団体数	構成比%	団体数	構成比%
増えた	39	35.5%	50	35.0%	32	26.2%
減った	18	16.4%	33	23.1%	40	32.8%
あまり変化ない	53	48.2%	60	42.0%	50	41.0%
合 計	110	100.0%	143	100.0%	122	100.0%

■庁内における社会貢献活動団体の活動支援に関するアンケート（集計表）

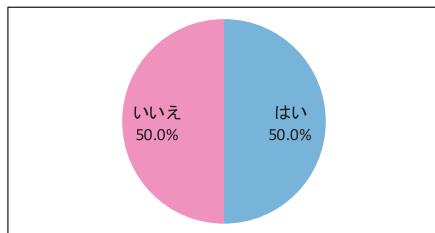
調査期間		令和5年8月1日～令和5年8月31日			
調査対象数	本庁全課室104課	回答数	42課	回答率	40.4%

◆本アンケートにおいては、

NPOとは…NPO法人、任意のNPO、市民活動団体、ボランティア団体及び町内会等の地縁組織と捉えてご回答ください。

(問1) 貴課はNPOと連携や協働を推進したいと考えていますか。

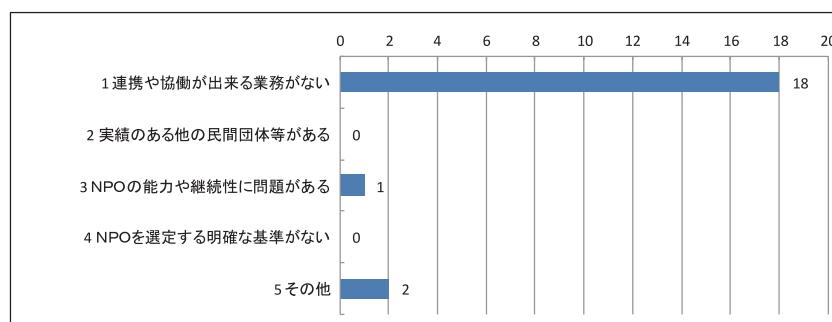
はい • いいえ



(問1-①) 連携や協働を推進したいと思わない理由はなんですか。

- 1 連携や協働が出来る業務がない
- 2 実績のある他の民間団体等がある
- 3 NPOの能力や継続性に問題がある
- 4 NPOを選定する明確な基準がない
- 5 その他

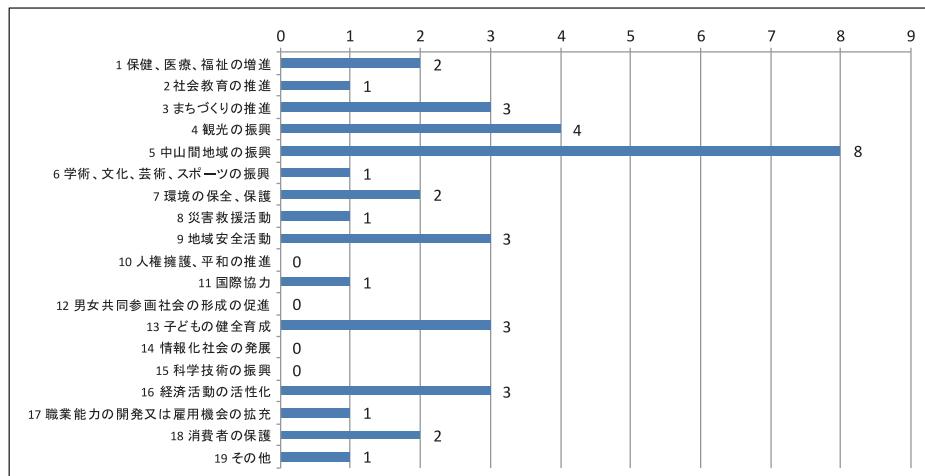
18
0
1
0
2



(問1-②) 今後、貴課が連携や協働で、重要と考える分野は、どの分野ですか。(3つまで選択可)

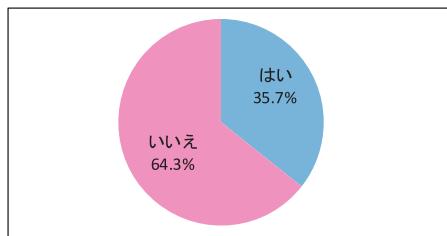
- | | | | |
|--------------------|---|---------------------|---|
| 1 保健、医療、福祉の増進 | 2 | 11 國際協力 | 1 |
| 2 社会教育の推進 | 1 | 12 男女共同参画社会の形成の促進 | 0 |
| 3 まちづくりの推進 | 3 | 13 子どもの健全育成 | 3 |
| 4 観光の振興 | 4 | 14 情報化社会の発展 | 0 |
| 5 中山間地域の振興 | 8 | 15 科学技術の振興 | 0 |
| 6 学術、文化、芸術、スポーツの振興 | 1 | 16 経済活動の活性化 | 3 |
| 7 環境の保全、保護 | 2 | 17 職業能力の開発又は雇用機会の拡充 | 1 |
| 8 災害救援活動 | 1 | 18 消費者の保護 | 2 |
| 9 地域安全活動 | 3 | 19 その他 | 1 |
| 10 人権擁護、平和の推進 | 0 | | |

1
0
3
0
0
3
1
2
1



(問2) NPOと関わった実績はありますか。(貴課のH28実績で記入してください。)

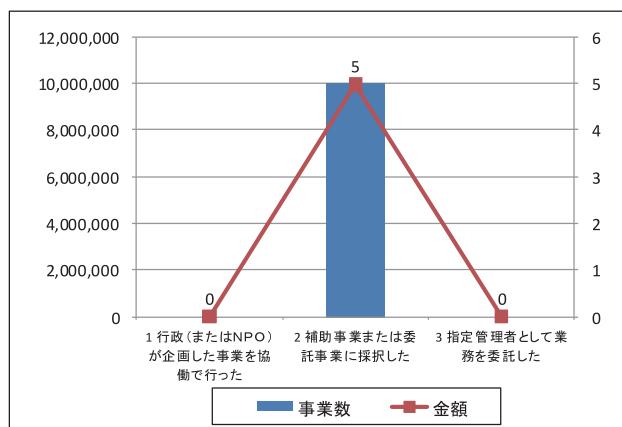
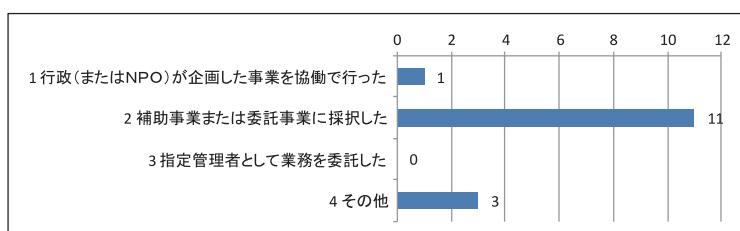
はい • いいえ



(問2-①)関わった形態はなんですか。(複数可)

- 1 行政(またはNPO)が企画した事業を協働で行った
* 2の補助事業、委託事業を除く
- 2 補助事業または委託事業に採択した
- 3 指定管理者として業務を委託した
- 4 その他

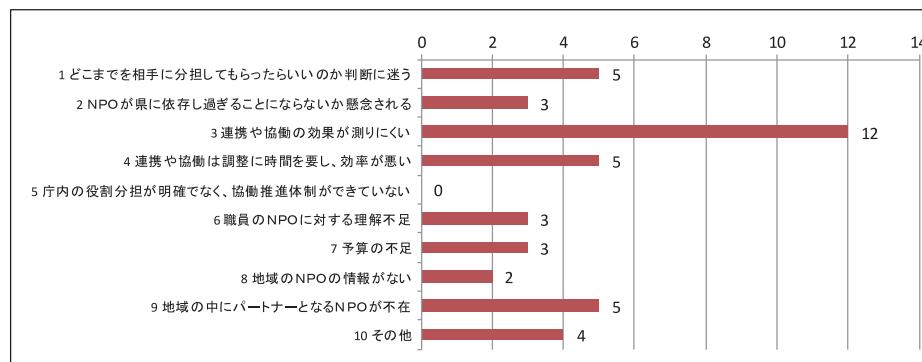
<input type="text" value="1"/>	【事業数 : <input type="text" value="0"/> 件、金額 : <input type="text" value="0"/> 円】
<input type="text" value="11"/>	【事業数 : <input type="text" value="5"/> 件、金額 : <input type="text" value="9,945,049"/> 円】
<input type="text" value="0"/>	【事業数 : <input type="text" value="0"/> 件、金額 : <input type="text" value="0"/> 円】
<input type="text" value="3"/>	



(問3) NPOと連携や協働を進める中で課題や障害となっていることは何ですか。(2つまで選択可)

- 1 どこまでを相手に分担してもらったらいいのか判断に迷う
- 2 NPOが県に依存し過ぎることにならないか懸念される
- 3 連携や協働の効果が測りにくい
- 4 連携や協働は調整に時間を要し、効率が悪い
- 5 庁内の役割分担が明確でなく、協働推進体制ができていない
- 6 職員のNPOに対する理解不足
- 7 予算の不足
- 8 地域のNPOの情報がない
- 9 地域の中にパートナーとなるNPOが不在
- 10 その他

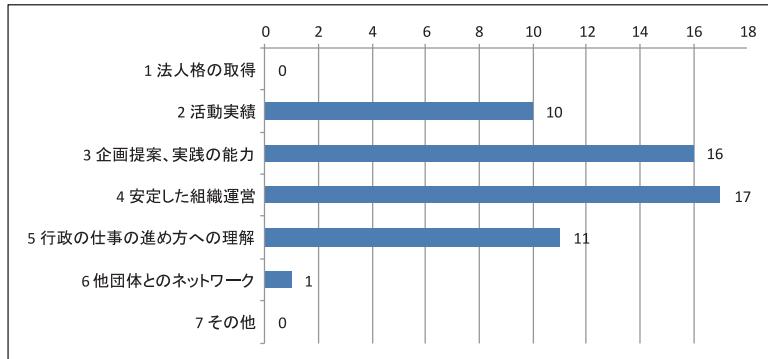
<input type="text" value="5"/>
<input type="text" value="3"/>
<input type="text" value="12"/>
<input type="text" value="5"/>
<input type="text" value="0"/>
<input type="text" value="3"/>
<input type="text" value="3"/>
<input type="text" value="2"/>
<input type="text" value="5"/>
<input type="text" value="4"/>



(問4) 連携や協働を進めるために、NPOに望むものはなんですか。(2つまで選択可)

- 1 法人格の取得
- 2 活動実績
- 3 企画提案、実践の能力
- 4 安定した組織運営
- 5 行政の仕事の進め方への理解
- 6 他団体とのネットワーク
- 7 その他

0
10
16
17
11
1
0



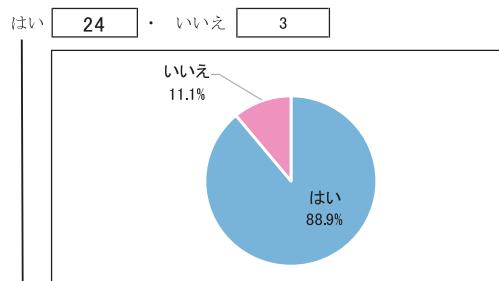
■市町村における社会貢献活動団体の活動支援に関するアンケート（集計表）

調査期間	令和5年8月1日～令和5年9月30日			
調査対象数	34 市町村	回答数	27 市町村	回答率
				79.4%

◆本アンケートにおいては、

NPOとは…NPO法人、任意のNPO、市民活動団体、ボランティア団体及び町内会等の地縁組織と捉えてご回答ください。

(問1) 貴市町村はNPOと連携や協働を推進したいと考えていますか。



(問1-①) 連携や協働を推進したいと思わない理由はなんですか。

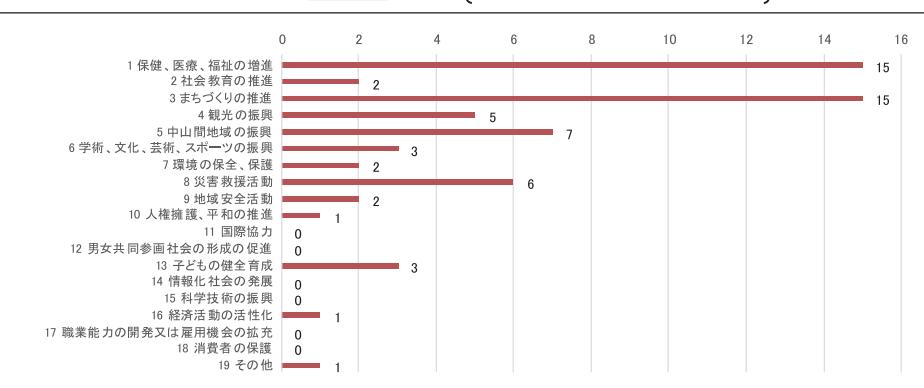
- 1 連携や協働が出来る業務がない
- 2 実績のある他の民間団体等がある
- 3 NPOの能力や継続性に問題がある
- 4 NPOを選定する明確な基準がない
- 5 その他

0
1
0
2
0



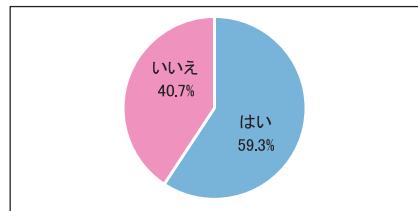
(問1-②) 今後、貴市町村が連携や協働で、重要と考える分野は、どの分野ですか。(3つまで選択可)

1 保健、医療、福祉の増進	15	11 國際協力	0
2 社会教育の推進	2	12 男女共同参画社会の形成の促進	0
3 まちづくりの推進	15	13 子どもの健全育成	3
4 観光の振興	5	14 情報化社会の発展	0
5 中山間地域の振興	7	15 科学技術の振興	0
6 学術、文化、芸術、スポーツの振興	3	16 経済活動の活性化	1
7 環境の保全、保護	2	17 職業能力の開発又は雇用機会の拡充	0
8 災害救援活動	6	18 消費者の保護	0
9 地域安全活動	2	19 その他	1
10 人権擁護、平和の推進	1		



(問2) NPOと関わった実績はありますか。(貴市町村全体のR4実績で記入してください。)

はい • いいえ



(問2-①) 関わった形態はなんですか。(複数可)

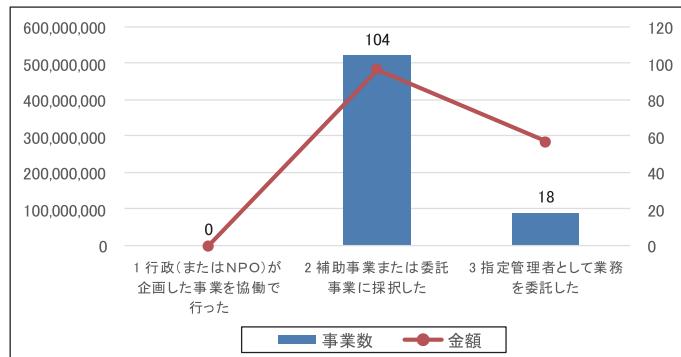
- 1 行政(またはNPO)が企画した事業を協働で行った
※2の補助事業、委託事業を除く
- 2 補助事業または委託事業に採択した
- 3 指定管理者として業務を委託した
- 4 その他

【事業数】 件、金額： 円】

【事業数】 件、金額： 円】

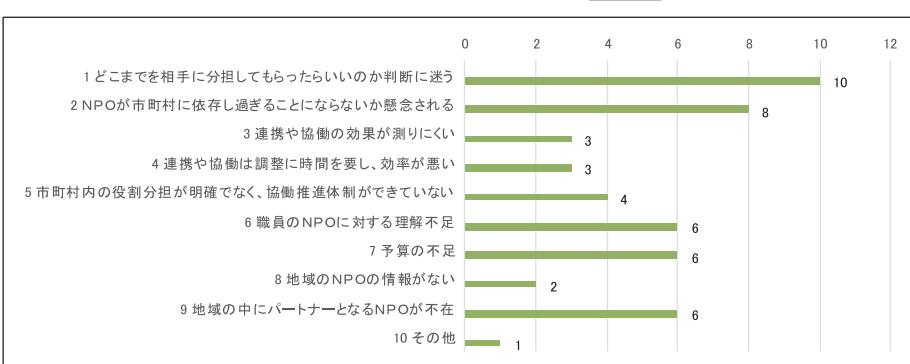
【事業数】 件、金額： 円】

【事業数】 件、金額： 円】



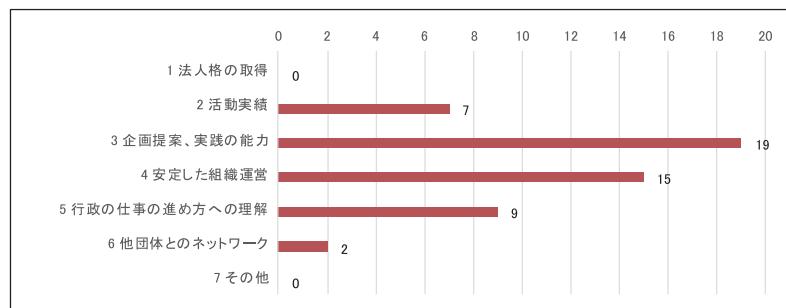
(問3) NPOと連携や協働を進める中で課題や障害となっていることは何ですか。(2つまで選択可)

- 1 どこまでを相手に分担してもらったらいいのか判断に迷う
- 2 NPOが市町村に依存し過ぎることにならないか懸念される
- 3 連携や協働の効果が測りにくい
- 4 連携や協働は調整に時間を使い、効率が悪い
- 5 市町村内の役割分担が明確でなく、協働推進体制ができていない
- 6 職員のNPOに対する理解不足
- 7 予算の不足
- 8 地域のNPOの情報がない
- 9 地域の中にパートナーとなるNPOが不在
- 10 その他



(問4) 連携や協働を進めるために、NPOに望むものはなんですか。(2つまで選択可)

1 法人格の取得	0
2 活動実績	7
3 企画提案、実践の能力	19
4 安定した組織運営	15
5 行政の仕事の進め方への理解	9
6 他団体とのネットワーク	2
7 その他	0



(問5) 貴市町村では、住民の自主性や自発性を引き出すために、どのような取組をされていますか。

(※自由記載の意見を抜粋)

- 〔
- 市政懇談会として、地区ごとの困りごとや要望等を取りまとめて懇談を行っている。
 - 顔の見える関係づくりや、住民福祉に対する当事者意識の醸成に向けた住民同士の地区座談会の開催している。
 - 地区ごとに役場と集落とのパイプ役となる担当職員を配置し、区長の補佐役として連携を図りながら集落の課題等に対応している。
- 〕

■企業の社会貢献に関するアンケート（集計表）

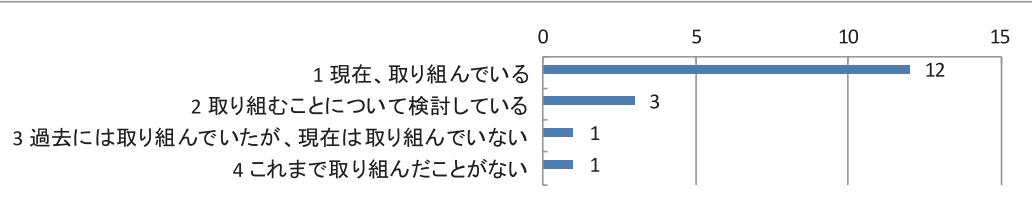
調査期間		令和5年10月15日～令和5年11月2日			
調査対象数	高知商工会議所会報配布先：3,700社	回答数	17社	回答率	0.5%

各設問について、該当する番号を選んで、別添の「回答用紙」に記入してください。

Q1 貴社では、現在、社会貢献活動に取り組んでいますか。

- 1 現在、取り組んでいる (Q2～Q7、Q9へ)
- 2 取り組むことについて検討している (Q8、Q9へ)
- 3 過去には取り組んでいたが、現在は取り組んでいない (Q8、Q9へ)
- 4 これまで取り組んだことがない (Q8、Q9へ)

12
3
1
1

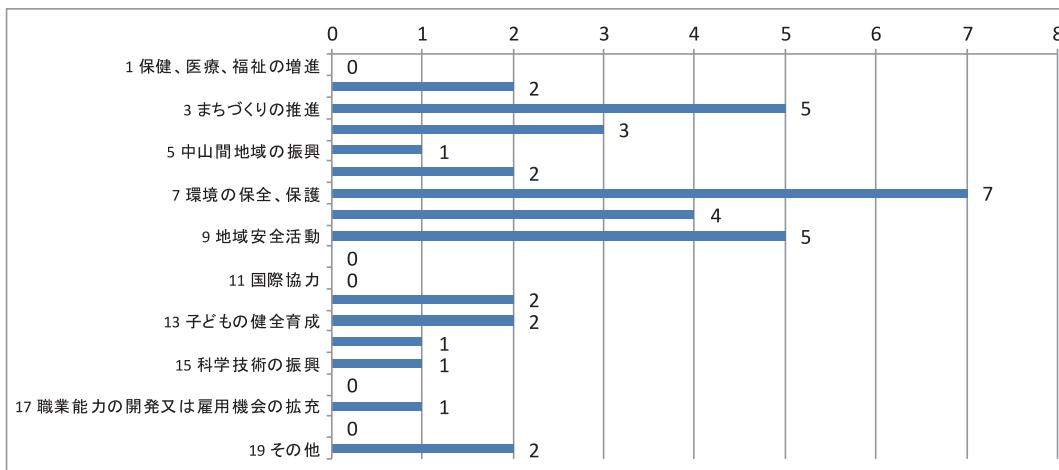


【Q1で「1 取り組んでいる」と回答された企業にお伺いします。】

Q2 社会貢献活動の活動対象分野は何ですか。(複数回答可)

- 1 保健、医療、福祉の増進
- 2 社会教育の推進
- 3 まちづくりの推進
- 4 観光の振興
- 5 中山間地域の振興
- 6 学術、文化、芸術、スポーツの振興
- 7 環境の保全、保護
- 8 災害救援活動
- 9 地域安全活動
- 10 人権擁護、平和の推進
- 11 国際協力
- 12 男女共同参画社会の形成の促進
- 13 こどもの健全育成
- 14 情報化社会の発展
- 15 科学技術の振興
- 16 経済活動の活性化
- 17 職業能力の開発、雇用機会の拡充
- 18 消費者の保護
- 19 その他

0
2
5
3
1
2
7
4
5
0
0
2
2
1
1
0
1
0
2
2

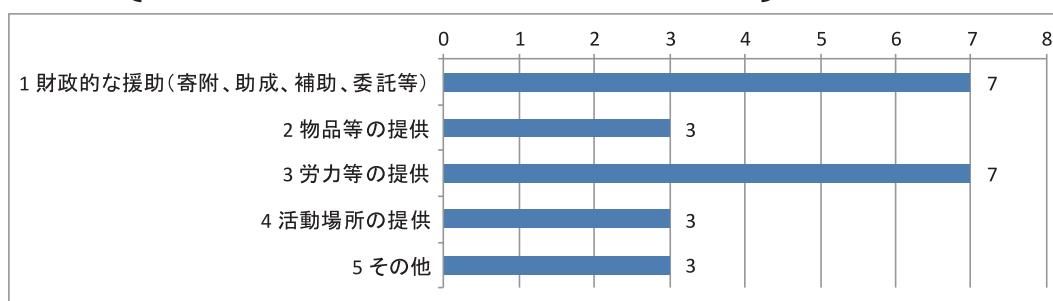


Q3 具体的な活動内容は何ですか。(複数回答可)

- | | |
|------------------------|---|
| 1 財政的な援助(寄附、助成、補助、委託等) | 7 |
| 2 物品等の提供 | 3 |
| 3 労力等の提供 | 7 |
| 4 活動場所の提供 | 3 |
| 5 その他 | 3 |

7
3
7
3
3

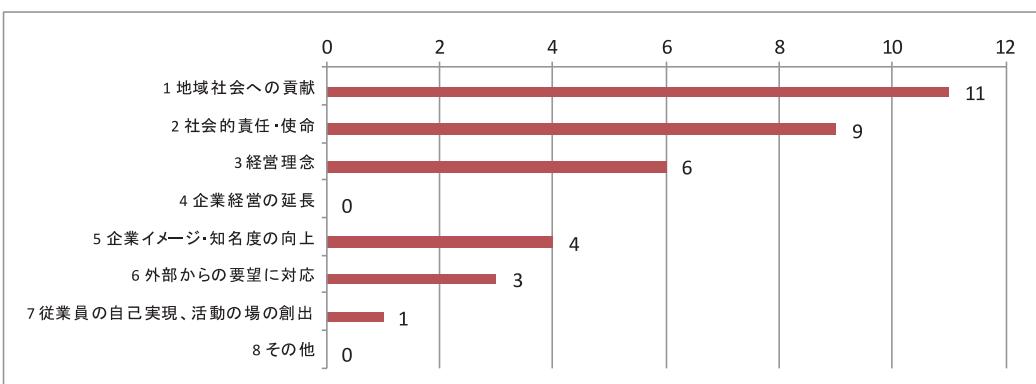
- 公用車での防犯活動
- 広報紙での防犯の呼びかけ
- 同業種の事業承継を行い、そこで働く従業員の雇用を守る



Q4 社会貢献活動に取り組んでいる目的は何ですか。(複数回答可)

- | | |
|--------------------|----|
| 1 地域社会への貢献 | 11 |
| 2 社会的責任・使命 | 9 |
| 3 経営理念 | 6 |
| 4 企業経営の延長 | 0 |
| 5 企業イメージ・知名度の向上 | 4 |
| 6 外部からの要望に対応 | 3 |
| 7 従業員の自己実現、活動の場の創出 | 1 |
| 8 その他 | 0 |

11
9
6
0
4
3
1
0



Q5 社会貢献活動を行うにあたり、他団体と連携をしていますか。(複数回答可)

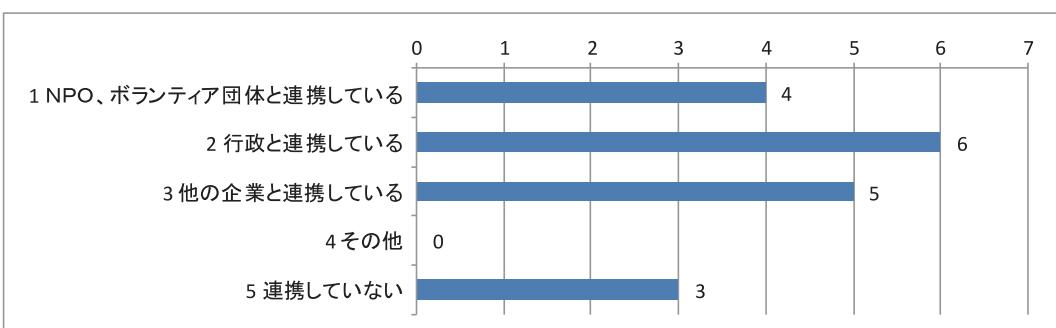
- | | |
|-----------------------|---|
| 1 NPO、ボランティア団体と連携している | 4 |
| 2 行政と連携している | 6 |
| 3 他の企業と連携している | 5 |
| 4 その他 | 3 |

4
6
5
3

- 地域スポーツクラブ
- ライオンズクラブ

5 連携していない

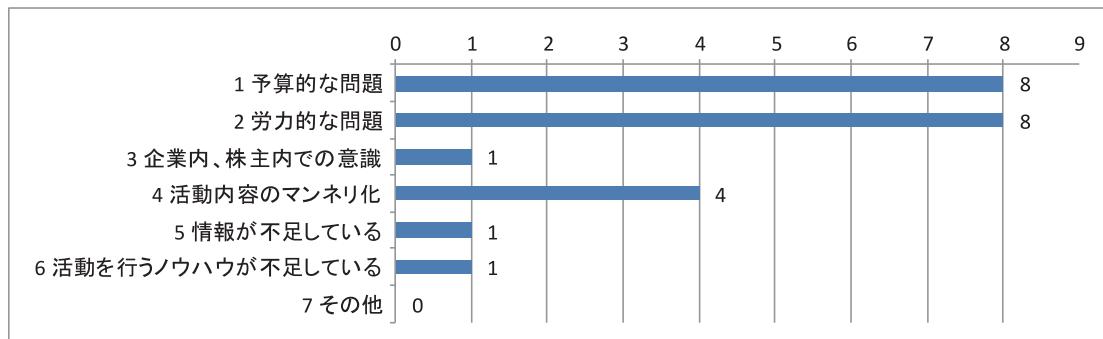
3



Q6 社会貢献活動を継続するうえで課題となっていることは何ですか。(複数回答可)

- | | |
|--------------------|---|
| 1 予算的な問題 | 8 |
| 2 労力的な問題 | 8 |
| 3 企業内、株主内での意識 | 1 |
| 4 活動内容のマンネリ化 | 4 |
| 5 情報が不足している | 1 |
| 6 活動を行うノウハウが不足している | 1 |
| 7 その他 | 0 |

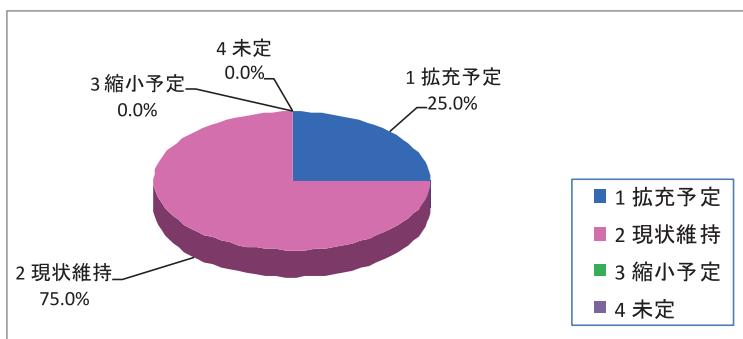
8
8
1
4
1
1
0



Q7 今後の活動全体の方向性

- | | |
|--------|---|
| 1 拡充予定 | 3 |
| 2 現状維持 | 9 |
| 3 縮小予定 | 0 |
| 4 未定 | 0 |

3
9
0
0

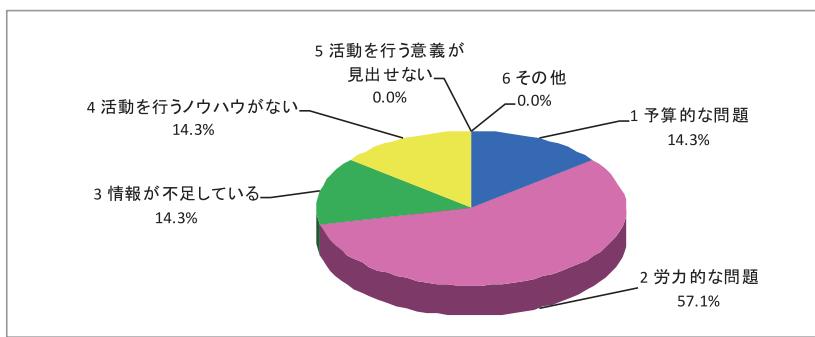


【Q1で「2 取り組むことについて検討している」、「3 過去に取り組んでいたが、現在は取り組んでいない」、「4 これまで取り組んだことがない」と回答された企業にお伺いします。】

Q8 社会貢献活動に取り組んでいくために課題となっていることは何ですか。

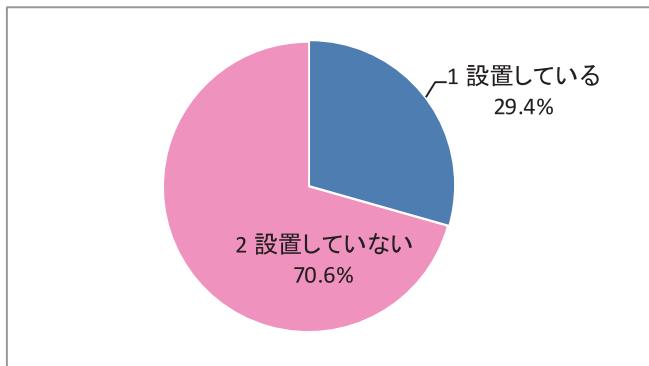
- | | |
|-----------------|---|
| 1 予算的な問題 | 1 |
| 2 労力的な問題 | 4 |
| 3 情報が不足している | 1 |
| 4 活動を行うノウハウがない | 1 |
| 5 活動を行う意義が見出せない | 0 |
| 6 その他 | 0 |

1
4
1
1
0
0



【すべての企業にお伺いします。】
Q9 社会貢献活動の担当窓口(担当課など)は設置していますか。

1 設置している	5
2 設置していない	12

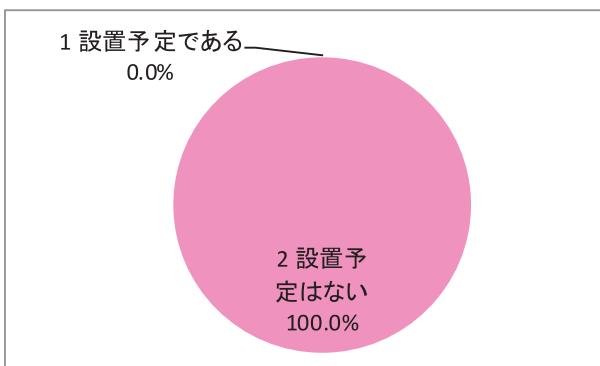


【Q9で「1 設置している」と回答された企業にお伺いします。】
Q10 社会貢献活動の担当窓口を設置されたのはいつ頃ですか。

設置時期	企業数
~2000年	0
2000年～2010年	1
2010年～2020年	1
2020年～	0
不明	3

【Q9で「2 設置していない」と回答された企業にお伺いします。】
Q10 今後社会貢献活動担当窓口の設置予定はありますか。

1. 設置予定である	0
2. 設置予定はない	12



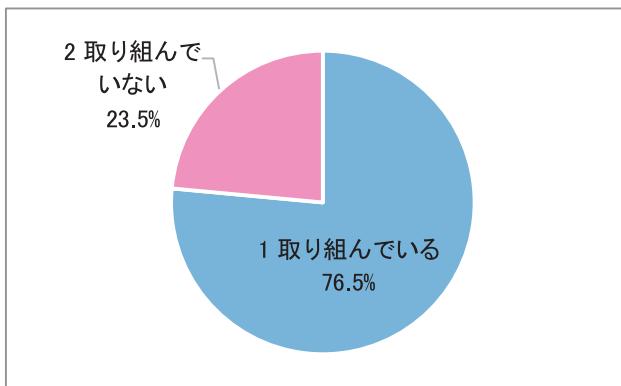
Q12 社会貢献活動を行うにあたり、行政に求めるものは何ですか。

〔 【別紙】 〕

Q13 貴社では、SDGsに取り組んでいますか。

- 1 取り組んでいる
2 取り組んでいない

13
4



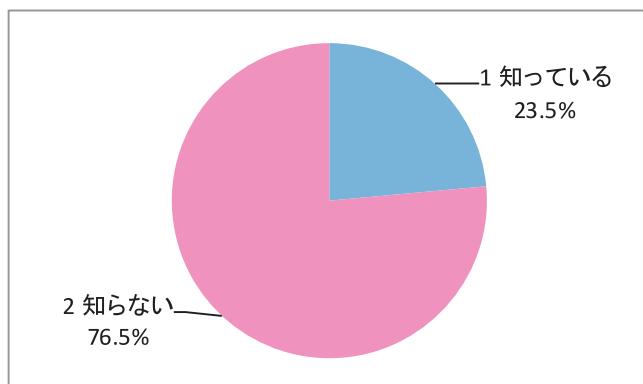
Q14 【Q13で「1 取り組んでいる」と回答された企業にお伺いします。】
それは、どのような取組ですか。

〔【別紙】〕

Q15 NPO法人やNPO法人を支援する中間支援組織(高知県ボランティア・NPOセンター等)について知っていますか。また、知っている場合はどのような印象をお持ちですか。

- 1 知っている
2 知らない

4
13



※自由記載の意見を抜粋

Q12 社会貢献活動を行うにあたり、行政に求めるものは何ですか。

- 県内外への周知
- 情報の提供
- 活動の機会や情報の提供、活動内容に対しての補助など
- 地域のニーズをヒアリング
- 助成金の拡充など財政的支援
- 称賛制度の認知度が低い
- 人材、労力確保
- 貢献活動の広報支援

Q14 どのようなSDGsの取組をしていますか。

- 社有林の間伐および植林
- エコアクション21を通して活動中
- 電気のこまめなon-off、LED化
- 5S活動の推進
- ペーパーレス化、残業時間の短縮
- 環境配慮…社有車のCO2削減
- 環境負荷低減可能な工法の採用
- インフラ整備によるまちづくり
- 出前授業による教育の場